S1 PRO+ WIRELESS PA SYSTEM

安全上の留意項目および使用方法をよく読み、それに従ってください。

CE Bose Corporationは、この製品がEU指令2014/53/EUおよび該当するその他すべてのEU指令の必須要件およびその他の該当条項に準拠していることを宣言します。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。www.Bose.com/compliance

UKCA この製品は、すべての適用される電磁両立規則2016およびその他すべての適用される英国の規制に準拠しています。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。www.Bose.com/compliance

Bose Corporationはここに、この製品が無線機器規則2017の必須要件およびその他すべての適用される英国の規制に準拠していることを宣言します。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。www.Bose.com/compliance

安全上の留意項目

この製品を水の近くで使用しないでください。

お手入れは乾いた布を使用して行ってください。

極性プラグを使用する場合、極性プラグや接地極付きプラグの安全機能を損なうような使い方はしないでください。極性プラグには2つの端子があり、片方の端子がもう一方の端子よりも幅が広くなっています。また、接地極付きプラグには2つの端子に加え、接地用のアース端子が付いています。極性プラグの広い方の端子および接地極付きプラグのアース端子は、お客様の安全を守る機能を果たします。製品に付属のプラグがお使いのコンセントに合わない場合は、電気工事業者などにご相談ください。

必ず指定された付属品、あるいはアクセサリーのみをご使用ください。

修理が必要な際には、Boseカスタマーサービスにお問い合わせください。製品に何らかの損傷が生じた場合、たとえば電源コードやプラグの損傷、液体や物の内部への侵入、雨や湿気などによる水濡れ、動作の異常、製品本体の落下などの際には、ただちに電源プラグを抜き、修理をご依頼ください。

警告/注意

この表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に注意喚起するものです。

この表示は、この取扱説明書の中に製品の取り扱いとメンテナンスに関する重要な項目が記載されていることを注意喚起するものです。

この製品には磁性材料が含まれています。体内に埋め込まれている医療機器への影響については、医師にご相談ください。

- 火災や感電を避けるため、雨や水滴、飛沫、湿気などにさらされるような場所で本製品を使用しないでください。また、花瓶などの液体が入った物品を本製品の上や近くに置かないでください。
- 火気や熱源などの近くで使用しないでください。火の付いたろうそくなどの火気を、製品の上や近くに置かないでください。
- 許可なく製品を改造しないでください。
- インバータ電源は使用しないでください。
- 車内や船上などで使用しないでください。

- プラグを主電源コンセントに接続する前にアース接続を行うか、コンセントに保護アース接続が組み込まれていることを確認してください。
  - *デンマーク*: “Apparatets stikprop skal tilsluttes en stikkontakt med jord, som giver forbindelse til stikproppens jord.”
  - *フィンランド*: “Laite on liitettävä suojamaadoituskoskettimilla varustettuun pistorasiaan”
  - *ノルウェー*: “Apparatet må tilkoples jordet stikkontakt”
  - *スウェーデン*: “Apparaten skall anslutas till jordat uttag”
- 万が一の事故や故障に備えるために、よく見えて手が届く位置にあるコンセントに電源プラグを接続してください。

標高2000 mを超える高地での使用には適していません。

- 本製品に付属の電池/バッテリーは、取り扱いを誤ったり、正しく交換しなかったり、誤ったタイプの電池/バッテリーと交換したりすると、火災や爆発、化学やけどなどの原因になる恐れがあります。
- 電池/バッテリーが含まれる製品を直射日光や炎など、過度な熱にさらさないでください。
- 本製品にはBose純正の電池/バッテリーのみを使用してください。交換用電池/バッテリーの入手方法はBoseカスタマーサービスまでお問い合わせください。
- 空気の流れが妨げられる恐れがあるため、本製品を壁のくぼみや密閉された家具の中には置かないでください。
- 暖炉、ラジエーター、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発する装置(アンプを含む)の近くには設置しないでください。
- Bose S1 Pro+ワイヤレスPAシステムを不安定な三脚(スタンド)で使用しないでください。本製品と三脚(スタンド)は、35 mm径のネジで固定するように設計されています。全体のサイズが332.6 x 240 x 279.8 mm、最低重量が6.8 kgのスピーカーを確実に保持できる三脚(スタンド)を使用してください。Bose S1 Pro+ワイヤレスPAシステムのサイズと重量を支えるように設計されていない三脚(スタンド)を使用すると、不安定で危険な状態となり、負傷につながる可能性があります。
- 製品ラベルは本体の底面にあります。

注: 本機は、FCC規則のパート15に定められたクラスBデジタル装置の規制要件に基づいて所定の試験が実施され、これに準拠することが確認されています。この規制要件は、住宅に設置した際の有害な干渉に対し、合理的な保護となるように策定されています。本機は無線周波数エネルギーを発生、利用、また放射することがありますので、指示どおりに設置および使用されない場合は、無線通信に有害な電波干渉を引き起こす可能性があります。しかし、特定の設置条件で干渉が発生しないことを保証するものではありません。本機が、電源のオン・オフによりラジオ・テレビ受信に有害な干渉を引き起こしていると確認された場合、次の1つ あるいはいくつかの方法で対処を試みることをおすすめします。

- 受信機やアンテナの向きや位置を変える。
- 本機と受信機の距離を離す。
- 受信機の接続されているコンセントとは別の回路のコンセントに本機を接続する。
- 販売店もしくは経験豊富なラジオ・テレビ技術者に相談する。

Bose Corporationによって明確な許諾を受けていない本製品への変更や改造を行うと、この機器を使用するユーザーの権利が無効になります。

このデバイスは、FCC規則のパート15およびカナダ イノベーション・科学経済開発省のライセンス適用免除RSS規則に準拠しています。動作は次の2つの条件に従う必要があります: (1) 本装置は有害な干渉を引き起こしません。(2) 本装置は、不適切な動作を招く可能性がある干渉を含め、いかなる干渉も対応できなければなりません。

本機は、ラジエーターと身体の間を20cm以上離して設置して動作させる必要があります。

ヨーロッパ向け:

Bluetooth モジュール: 運用周波数帯: 2400 ～ 2483.5 MHz

最大送信出力20 dBm EIRP未満

2.4 GHz モジュール: 運用周波数帯: 2402 ～ 2482 MHz

最大送信出力10 dBm (10mW) EIRP未満

最大送信出力が規制値を下回っているため、SARテストは不要で、適用される規制ごとに免除されます。

この記号は、製品が家庭ごみとして廃棄されてはならず、リサイクル用に適切な収集施設に送る必要があることを意味しています。適切な廃棄とリサイクルにより、自然資源、人体の健康、環境が保護されることになります。本製品の廃棄およびリサイクルに関する詳細は、お住まいの自治体、廃棄サービス、または本製品を購入された店舗にお問い合わせください。

低電力無線デバイスに関する技術規則

会社、企業、またはユーザーは、NCCの許可なく、承認済みの低電力無線デバイスの周波数を変更したり、送信出力を強化したり、元の特性および性能を改変したりすることはできません。低電力無線デバイスが、航空機の安全に影響を及ぼしたり、正規の通信を妨害したりすることはできません。発見された場合、ユーザーは干渉が発生しなくなるまでただちに使用を中止しなければなりません。上述の正規の通信とは、電気通信管理法に基づいて運用される無線通信を意味します。低電力無線デバイスは、正規の通信またはISM帯電波を放射するデバイスからの干渉に対応できなければなりません。

製品の電力状態

本製品は、エネルギー関連製品のエコデザイン要件に関する指令2009/125/ECおよびエネルギー関連製品およびエネルギー情報のエコデザイン(改正) (EU離脱)規則2020に基づき、以下の規範または文書に準拠しています。Regulation (EC) No. 1275/2008、改正版Regulation (EU) No. 801/2013

電力状態に関する必須情報	電力モード	
	スタンバイ	ネットワーク待機状態
当該電力モードでの消費電力(230V/50Hz入力)	0.4 W	N/A
機器が自動的にモードに切り替わるまでの時間	4時間	N/A
すべての有線ネットワークポートが接続され、すべてのワイヤレスネットワークポートが有効な場合の、ネットワーク待機モードの消費電力(230V/50Hz入力)	N/A	N/A
ワイヤレスネットワークポートの有効化/無効化手順。すべてのネットワークを無効にすると、スタンバイモードが有効になります。	N/A	

使用済みの電池/バッテリーは、お住まいの地域の条例に従って正しく処分してください。焼却しないでください。

廃電池請回收

Li-ion

有毒/有害物質または成分の名称および含有量						
	有毒/有害物質および成分					
パーツ名	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (CR(VI))	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
PCB	X	O	O	O	O	O
金属パーツ	X	O	O	O	O	O
プラスチックパーツ	O	O	O	O	O	O
スピーカー	X	O	O	O	O	O
ケーブル	X	O	O	O	O	O
バッテリー	O	O	O	O	O	O
この表はSJ/T 11364の規定に従って作成されています。 O: このパーツに使用されているすべての均質物質に含まれている当該有毒/有害物質が、GB/T 26572の制限要件を下回っていることを示します。						
X: このパーツに使用されている1種類以上の均質物質に含まれている当該有毒/有害物質が、GB/T 26572の制限要件を上回っていることを示します。						

機器名: ワイヤレスPAシステム、型式: 436469						
	制限される物質および化学記号					
ユニット名	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr+6)	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
PCB	-	○	○	○	○	○
金属パーツ	-	○	○	○	○	○
プラスチックパーツ	○	○	○	○	○	○
スピーカー	-	○	○	○	○	○
ケーブル	-	○	○	○	○	○
バッテリー	○	○	○	○	○	○
注1:「○」は、制限される物質のパーセント含有量が、参照値のパーセントを超えていないことを示します。 **注2:**「-」は、制限される物質が免除に該当することを示します。						

製造日: シリアル番号の8桁目の数字は製造年を表します。「3」は2013年または2023年です。

輸 入 元: Bose Electronics (Shanghai) Company Limited, Level 6, Tower D, No. 2337 Gudai Rd. Minhang District, Shanghai 201100 | Bose Products B.V., Gorslaan 60, 1441 RG Purmerend, The Netherlands | Bose de México S. de R.L. de C.V., Avenida Prado Sur #150, Piso 2, Interior 222 y 223, Colonia Lomas de Chapultepec V Sección, Miguel Hidalgo, Ciudad de México, C.P. 11000 電話番号: +5255 (5202) 3545 | Bose Limited (H.K.), 9F., No.10, Sec.3, Minsheng E. Road, Zhongshan Dist. Taipei City 10480, 電話番号: +886-2-2514 7676 | Bose Limited, Bose House, Quayside Chatham Maritime, Chatham, Kent, ME4 4QZ, United Kingdom

入力定格: 100 ～ 240V ∿ 50/60Hz、1A

出力定格:

- USB POWER充電ポート: 5V ⎓ 1.5A
- ワイヤレストランスミッター充電ポート: 5V ⎓ 0.3A

電池/バッテリー容量: 5500mAh

充電時の温度範囲: 0° C – 45° C

電池/バッテリー使用時の温度範囲: -20° C – 49° C

寸法(H × W × D): 332.6 x 240 x 279.8 mm

質量: 6.5 kg

始動時の突入電流: 12.4A @ 120V、12.8A @ 230V

5秒間のAC電源遮断後の突入電流: 2.5A @ 120V、3A @ 230V

モデル: 436469。CMIIT IDは製品の底面にあります。

製品情報の控え

シリアル番号とモデル番号は、製品の底面に記載されています。

シリアル番号: _____

モデル番号: 436469

この取扱説明書と共に、ご購入時の領収書を保管することをおすすめします。製品の登録をお願いいたします。登録は弊社Webサイト(worldwide.Bose.com/ProductRegistration)から簡単に行えます。

AppleおよびAppleのロゴはApple Inc.の商標であり、アメリカ合衆国および他の国々で登録されています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標で、Bose Corporationはこれらの商標を使用する許可を受けています。

GoogleおよびGoogle PlayはGoogle LLCの商標です。

USB Type-C®およびUSB-C®は、USB Implementers Forumの登録商標です。

Bose、Bのロゴ、L1、およびToneMatchは、Bose Corporationの商標です。

Bose Corporation Headquarters: 1-877-230-5639

©2024 Bose Corporation.本書のいかなる部分も、書面による事前の許可のない複写、変更、配布、その他の使用は許可されません。

The following license disclosures apply to certain third-party software packages used as components in the product.

Package: FreeRTOS

Copyright © Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

Package: LVGL - Light and Versatile Graphics Library

Copyright © 2021 LVGL Kft

The above is/are subject to the license terms reprinted below:

MIT License

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Packages: STM32CubeF4 HAL Driver MCU Component and STM32 LL - STM32 Low Layer API

Copyright 2017 STMicroelectronics. All rights reserved.

The above is/are subject to the license terms reprinted below:

3-Clause BSD License

(Also called “New BSD License” or “Modified BSD License”)

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of the <organization> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL <COPYRIGHT HOLDER> BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

内容物の確認

内容物 15

BOSEアプリのセットアップ

Boseアプリをダウンロードする 16

既存のアカウントにシステムを追加する 16

コントロールパネルと接続パネル

パネルの概要 17

電源

システムを電源に接続する 18

電源オン/オフ 18

自動オフタイマー 19

自動オフタイマーの無効化 19

ソース機器の接続

チャンネル1と2にソースを接続する 20

チャンネル3にソースを接続する 21

Bluetooth® 機器を接続する 21

TS/TRSライン入力に接続する 22

AUXライン入力に接続する 22

チャンネルのオーディオを調整する

チャンネルの音量、高音、低音、リバーブを調節する 23

音量を調節する 23

高音を調節する 24

低音を調節する 24

リバーブを調節する(チャンネル1、2のみ) 25

チャンネルとシステムの設定

チャンネルとシステムの設定にアクセスする 26
ToneMatch プリセットの設定 27
ToneMatch プリセットを選択する (チャンネル1、2のみ) 27
Bose アプリにより ToneMatch プリセットをカスタマイズする 28
ToneMatch のカスタムプリセットを消去する 28
チャンネルインサート設定 29
チャンネルワイヤレス設定 29
チャンネルエクスパンダー設定 29
ライブストリーミングモード設定 30
ライブストリーミングモードについて 30
ライブストリーミングモードの有効/無効を切り替える 30
システムをパソコンに接続する 32
ライブストリーミングモードでモニター音量を調節する 33
サブ EQ 設定 34
サブ EQ の有効/無効を切り替える 34

BOSE アプリ専用機能

チャンネルとチャンネルリバーブ効果のミュート 36
シーンを保存する 36
デュアルワイヤレスストリーミングの有効/無効を切り替える 36
ToneMatch プリセットをカスタマイズする 36

ワイヤレストランスミッターの操作

対応するワイヤレストランスミッター 37
ワイヤレストランスミッターとチャンネル1または2をペアリングする 37
ペアリングしたワイヤレストランスミッターをオーディオソースに接続する 38
ワイヤレストランスミッターの電源をオン/オフする 39
　自動オフタイマー 39
ワイヤレストランスミッターをミュート/ミュート解除する 39
マイク入力とライン入力を切り替える 40
ワイヤレストランスミッターを使用する際にチャンネルインサートに
エフェクターを接続する 40
　チャンネルインサート機能の有効/無効を切り替える 41
ワイヤレストランスミッター機能の有効/無効を切り替える 42

スピーカースタンド

スピーカースタンドに取り付ける 43

システムのセットアップシナリオ

システム構成 44
テーブル上に設置 44
後ろに傾ける 44
横向きにして床置きモニターとして使用 44
スピーカースタンドを使用 44
ミュージシャン＋モバイル機器 45
ミュージシャン＋モバイル機器、ワイヤレストランスミッター 45
複数の楽器 46
演奏者とエフェクトミキサー 46
ミュージシャン＋ワイヤレストランスミッター、エフェクター / ペダル、ボーカルプロセッサー 47
ギタリスト＋ワイヤレストランスミッター、ギターアンプモデリングペダル 48
一般的な PA 49
ステレオ 49
デュアルモノラル / デイジーチェーン 51
DJ と Bose Sub1 または Sub2 Powered Bass Module 52
Bose アプリによるデュアルワイヤレスストリーミング 53
ミュージシャンのパソコンへの録音またはライブストリーミング 53

バッテリー

システムバッテリーを充電する 54
充電時間 54
システムバッテリーの充電状態を確認する 54
ワイヤレストランスミッターを充電する 55
充電ポートを使用する 55
ウォールチャージャーまたはパソコンを使用する 55
充電時間 56
ワイヤレストランスミッターのバッテリー残量を確認する 56
USB 充電ポートを使用してモバイル機器を充電する 56

システムの状態

シグナル/クリップインジケーター 57
電源インジケーター 58
Bluetooth インジケーター 58
チャンネルディスプレイ 59
　チャンネルディスプレイの読み方 59
　ステータスアイコン 59
　バッテリーアイコン 60

ワイヤレストランスミッターの状態

電源インジケーター 62
接続インジケーター 63

BLUETOOTH 接続

モバイル機器を接続する 64
モバイル機器の接続を解除する 64
モバイル機器を再接続する 64
システムのデバイスリストを消去する 64

補足事項

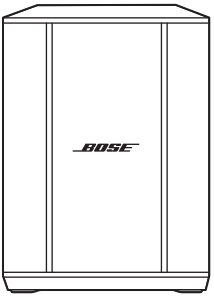
システムバッテリーを交換する 65
システムをアップデートする 67
ワイヤレストランスミッターをアップデートする 67
システムのお手入れについて 67
システムの輸送と保管 68
交換部品とアクセサリー 68
保証 68

トラブルシューティング

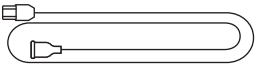
最初にお試しいただくこと 69
その他の対処方法 69
　　システム 69
　　ワイヤレストランスミッター 73
エクスパンダー設定の有効/無効を切り替える 75
システムをリセットする 77
ワイヤレストランスミッターをリセットする 77

内容物

下図の内容物がすべて同梱されていることを確認してください。



Bose S1 Pro+ ワイヤレス PA システム
(電池付属)



電源コード

注: 万が一、開梱時に内容物の損傷や欠品などが発見された場合は、使用せず、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。

次のサイトをご参照ください: support.Bose.com/S1ProPlus

Boseアプリを使用すると、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器からシステムのセットアップや操作を行うことができます。

このアプリを使用して、システムのリモート操作、システム設定の管理、ToneMatchプリセットのカスタマイズ、チャンネルとリバーブのミュート、シーンの保存、デュアルワイヤレスストリーミングなどの専用機能へのアクセスが可能です(36ページを参照)。

別のBose製品用のBoseアカウントを既に作成してある場合は、「既存のアカウントにシステムを追加する」をご覧ください。

BOSEアプリをダウンロードする

1. モバイル機器でBoseアプリをダウンロードします。

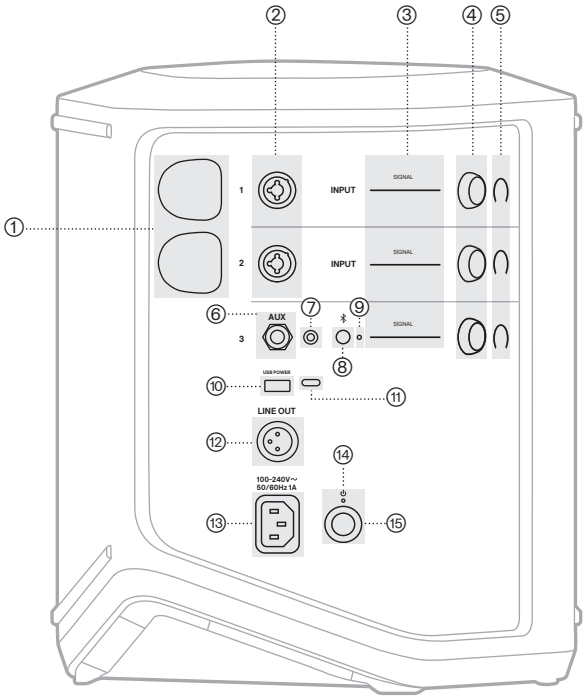
Download on the App Store　GET IT ON Google Play

2. アプリの手順に従ってください。

既存のアカウントにシステムを追加する

Bose S1 Pro+ワイヤレスPAシステムを追加するには、Boseアプリを開いてシステムを追加します。

パネルの概要



① **ワイヤレストランスミッター充電ポート**。
55ページをご覧ください。

② **チャンネル入力**(バランス/アンバランス複合入力 ¼″ または6.35 mm TS/TRSおよびXLR)。20ページをご覧ください。

③ **シグナル/クリップインジケーター**。
57ページをご覧ください。

④ **チャンネル操作ボタン**。
23ページをご覧ください。

⑤ **チャンネルディスプレイ**。
59ページをご覧ください。

⑥ **TRSバランスモノラルライン入力**
(¼″ または6.35 mm TS/TRS)。
22ページをご覧ください。

⑦ **AUXステレオライン入力**
(⅛″ または3.5 mm TRS)。
22ページをご覧ください。

⑧ ***Bluetooth*ボタン**。
21ページをご覧ください。

⑨ ***Bluetooth*インジケーター**。
58ページをご覧ください。

⑩ **USB充電ポート**(USB-A)。
56ページをご覧ください。

⑪ **USB Type-C®ポート**。
ライブストリーミングモード(32ページを参照)およびシステムアップデート(67ページを参照)で使用します。

⑫ **ライン出力**(XLR)。XLRケーブルを使用して、ミックス後のラインレベル出力を他のシステムに接続します。フルスペクトルオーディオを提供する可変出力です。
51ページをご覧ください。

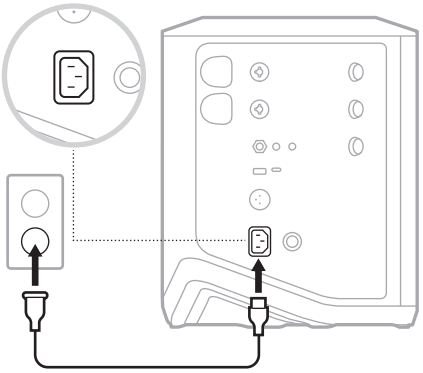
⑬ **電源端子**。
18ページをご覧ください。

⑭ **電源インジケーター**。
58ページをご覧ください。

⑮ **電源ボタン**。
18ページをご覧ください。

システムを電源に接続する

1. 電源コードをシステムの背面にある端子に接続します。

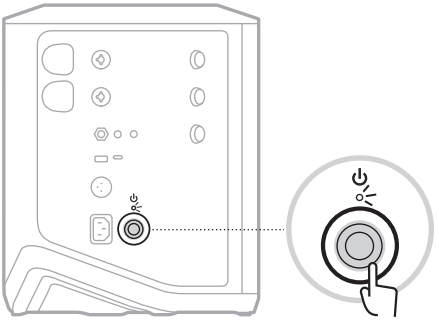


2. 電源コードの反対側を壁のコンセントに差し込みます。

電源オン/オフ

電源ボタン ⏻ を押します。

電源インジケーターが白く点灯します。

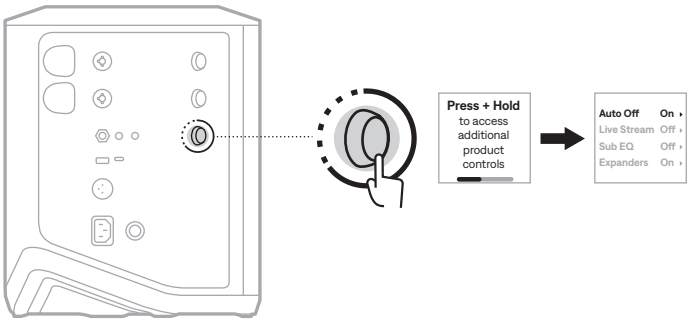


自動オフタイマー

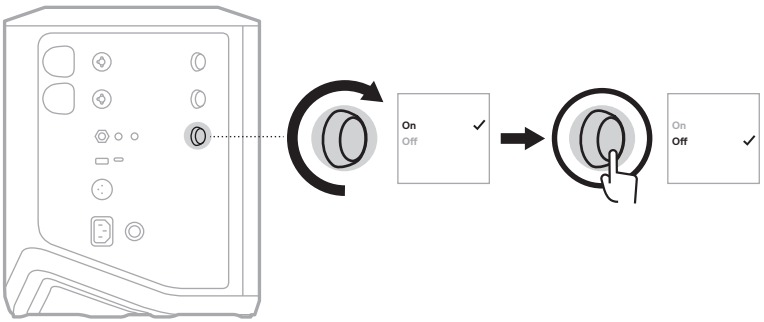
システムが使用されない状態が続くと自動オフタイマーが働き、消費電力を抑えます。オーディオが停止してから4時間操作しないと、システムの電源が切れます。

自動オフタイマーの無効化

1. チャンネル3のチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを押して、「**Auto Off**」を選択します。
3. チャンネル操作ボタンを回して「**Off**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



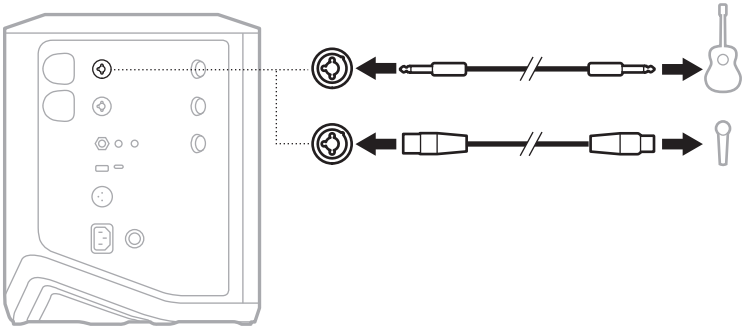
4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

ヒント: 自動オフタイマーは、Boseアプリを使用して無効にすることもできます。このオプションは設定メニューから設定できます。

チャンネル1と2にソースを接続する

チャンネル1と2には楽器やマイクを接続します。チャンネル入力は幅広い種類の入力に適しており、出力レベルに応じてチャンネルの音量を設定することで、適切なゲインステージ設定によりノイズを最小に抑えることができます。

1. 適切なケーブルを使用して、楽器やマイクをチャンネル入力に接続します。



2. チャンネルの音量、高音、低音、リバーブを希望するレベルに調節します(23ページを参照)。

3. ToneMatchプリセットを適用して楽器やマイクの音を最適化することもできます(27ページを参照)。

チャンネル3にソースを接続する

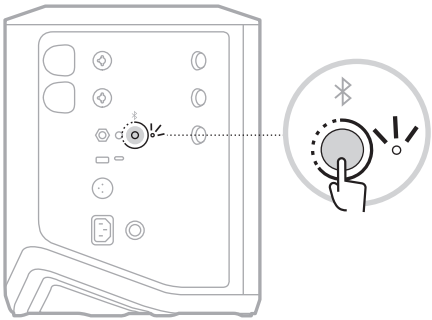
チャンネル3には*Bluetooth*機器やラインレベルのオーディオソースを接続します。

注: チャンネル3には、モバイル機器とラインレベルのオーディオソースを同時に接続できます。その場合、システムは各ソースの音声をミックスします。そのため、チャンネルの音量、高音、低音を調節すると、両方のソースに影響します。モバイル機器の音量を単独で調節するには、機器のコントロールを使用してください。

*Bluetooth*機器を接続する

一度に接続して音楽を再生できる*Bluetooth*機器は1台だけです。

1. *Bluetooth*インジケーターが青く点滅するまで、チャンネル3の*Bluetooth*ボタン ᛒ を長押しします。

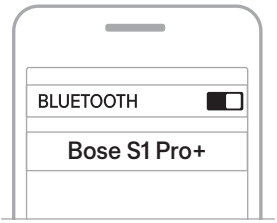


2. モバイル機器の*Bluetooth*機能をオンにします。

   注: 通常、*Bluetooth*メニューは設定メニューにあります。

3. デバイスリストからシステムを選択します。

   注: Boseアプリでシステムに付けた名前を探してください。システムに名前を付けていない場合は、デフォルトの名前が表示されます。



接続すると*Bluetooth*インジケーターが白く点灯します。モバイル機器のペアリングされたリストにシステムの名前が表示されます。

TS/TRS ライン入力に接続する

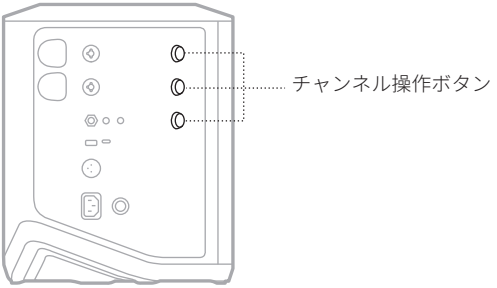
モノラル入力です。¼″ (6.35 mm) TRS ケーブルを使用して、ミキサーや楽器のエフェクターなど、ラインレベルのオーディオソースを接続します。

AUX ライン入力に接続する

ステレオ入力です。⅛″ (3.5 mm) TRS ケーブルを使用して、モバイル機器やノートパソコンなど、ラインレベルのオーディオソースを接続します。

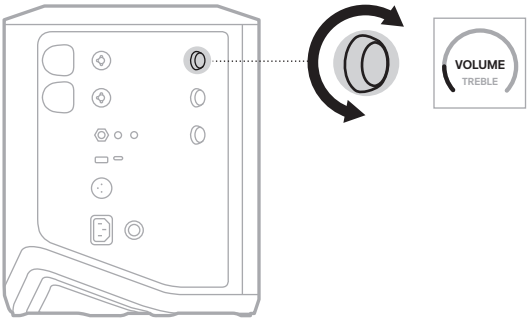
チャンネルの音量、高音、低音、リバーブを調節する

コントロールパネルの右側にあるチャンネル操作ボタンを使用して、チャンネルの音量、高音、低音、リバーブ(チャンネル1、2のみ)をリアルタイムで調節できます。



音量を調節する

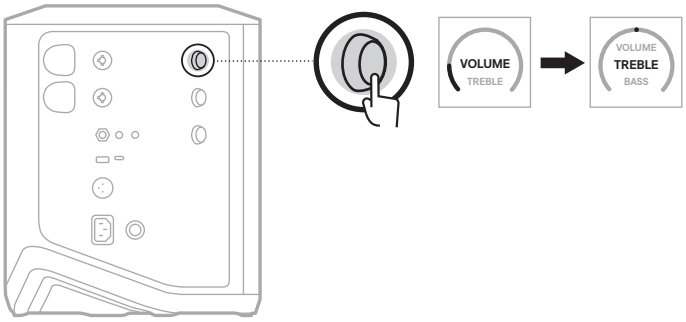
チャンネルの音量を調節するには、チャンネル操作ボタンを回します。



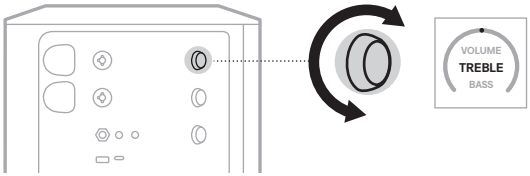
注: Boseアプリを使用して、チャンネルをミュートすることもできます(36ページを参照)。

高音を調節する

1. チャンネルディスプレイに「**TREBLE**」と表示されるまで、チャンネル操作ボタンを長押しします。



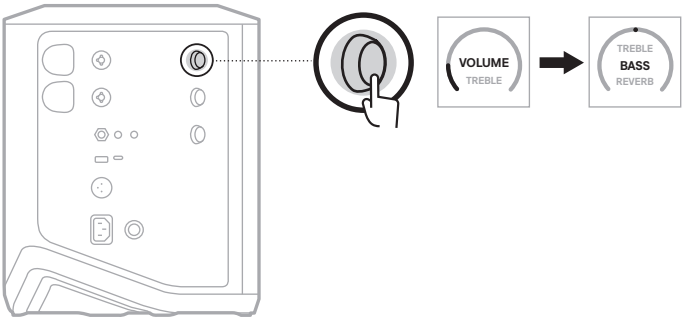
2. チャンネル操作ボタンを回して、チャンネルの高域バランスを増幅またはカットできます。



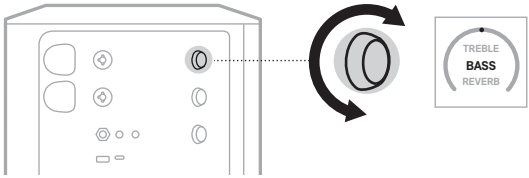
注: 10秒以上操作しないと、チャンネルディスプレイが「VOLUME」に戻ります。

低音を調節する

1. チャンネルディスプレイに「**BASS**」と表示されるまで、チャンネルコントロールを長押しします。



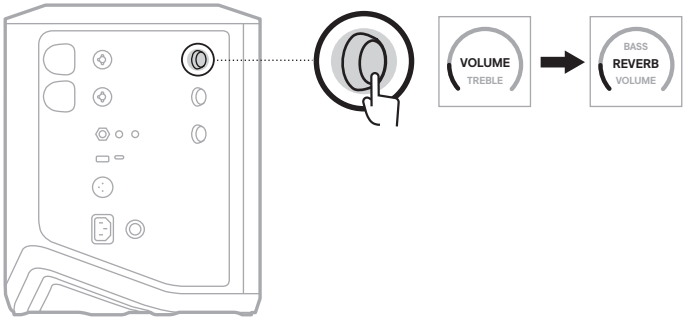
2. チャンネル操作ボタンを回して、チャンネルの低域バランスを増幅またはカットできます。



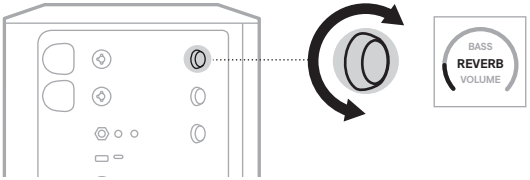
注: 10秒以上操作しないと、チャンネルディスプレイが「VOLUME」に戻ります。

リバーブを調節する(チャンネル1、2のみ)

1. チャンネルディスプレイに「**REVERB**」と表示されるまで、チャンネル操作ボタンを長押しします。



2. チャンネル操作ボタンを回して、チャンネルに適用されるリバーブの量を調節できます。



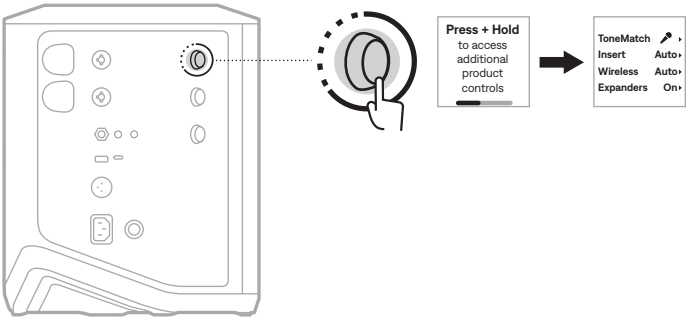
注記:

- 10秒以上操作しないと、チャンネルディスプレイが「VOLUME」に戻ります。
- Boseアプリを使用して、チャンネルのリバーブ効果をミュートすることもできます(36ページを参照)。

チャンネルとシステムの設定にアクセスする

セットアップする状況に合わせてシステムを最適な状態にするため、チャンネルやシステムの設定を調整できます。

チャンネルとシステムの設定にアクセスするには、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されるまで、いずれかのチャンネル操作ボタンを長押しします。



このメニューの設定項目はチャンネルによって異なります。

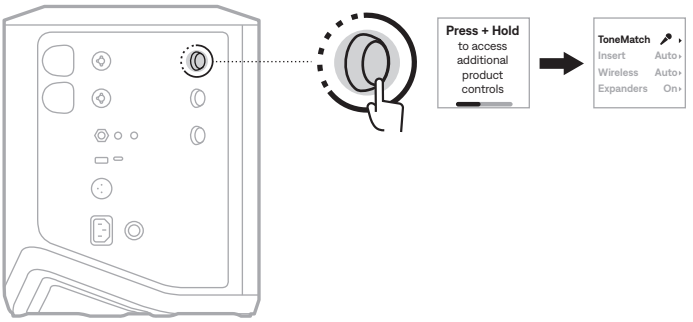
チャンネル	メニューの設定
チャンネル1、2	メニューには、選択したチャンネルにのみ影響するチャンネル設定が含まれています。
チャンネル3	メニューには、システム全体の動作を変更するシステム設定が含まれています。

TONEMATCHプリセットの設定

ToneMatchプリセットは、楽器やマイクが持つナチュラルな音色が再現されるようにシステムEQを最適化します。

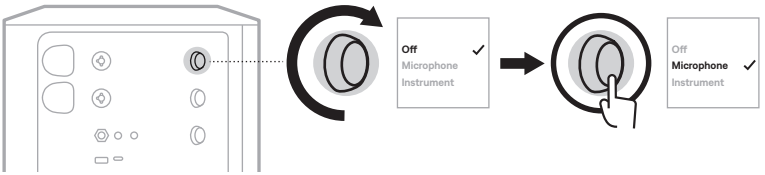
ToneMatchプリセットを選択する(チャンネル1、2のみ)

1. チャンネル1または2のどちらかのチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを押して、「**ToneMatch**」を選選択します。

3. チャンネル操作ボタンを回して、以下のソースに適したプリセットをハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。
   - **Microphone**: デフォルトでは、ハンドヘルド型ダイナミックマイク用のシステムEQを調整するプリセットです。
   - **Instrument**: デフォルトでは、ピエゾピックアップを搭載したスチール弦のアコースティックギターのシステムEQを調整するプリセットです。



注:

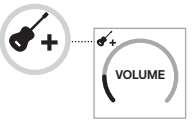
- これらのプリセットを特定のマイクや楽器のモデルに合わせてカスタマイズする場合や、一般的なEQフィルターを適用する場合は、Boseアプリを使用します(28ページを参照)。
- 「Off」を選択すると、そのチャンネルのToneMatchプリセットがバイパスされます。

4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

Boseアプリにより ToneMatch プリセットをカスタマイズする

Boseアプリを使用して、チャンネル1と2のMicrophoneまたはInstrumentのデフォルトプリセットをカスタマイズし、セットアップシナリオに合わせてシステムEQをより最適な状態にできます。ToneMatchのプリセットライブラリから、特定モデルのマイクや楽器に合わせて選択したり、一般的なEQフィルターを適用したり、ギターアンプのエフェクトペダルを使って最高のサウンドを実現したりすることが可能です。このオプションは設定メニューから設定できます。

チャンネルでToneMatchプリセットをカスタマイズすると、チャンネルディスプレイのアイコンの横に＋マークが表示されます。

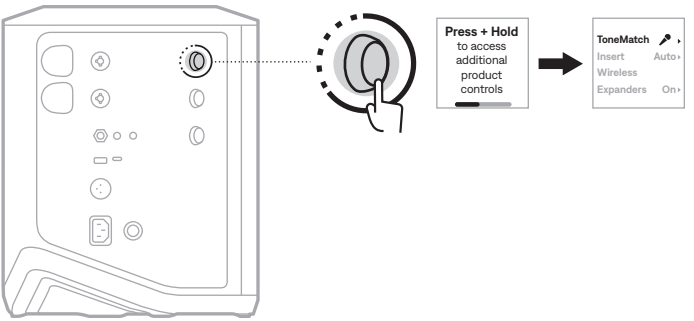


カスタムプリセットを消去するか、工場出荷時の設定に戻すまで、カスタムプリセットは保持されます。

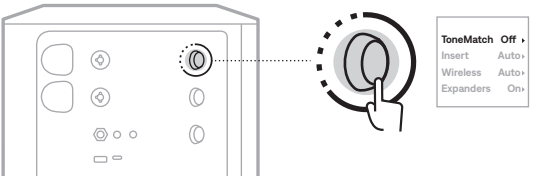
ToneMatchのカスタムプリセットを消去する

ToneMatchのカスタムプリセットを消去すると、カスタマイズしたプリセットに応じて、MicrophoneまたはInstrumentのデフォルト設定にリセットされます。

1. チャンネル1または2のどちらかのチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. 「**ToneMatch**」オプションをハイライト表示した状態で、ToneMatchの設定が「**Off**」になるまでチャンネル操作ボタンを長押しします。



チャンネルインサート設定

チャンネルインサート設定により、チャンネルのエフェクトのループ機能の有効/無効を切り替えることができます。有効にすると、ソースにワイヤレストランスミッターを使用しながら、チャンネル入力にエフェクターやペダルを接続できます。

詳しくは、「ワイヤレストランスミッターを使用する際にチャンネルインサートにエフェクターを接続する」(40ページ)をご覧ください。

チャンネルワイヤレス設定

チャンネルワイヤレス設定により、チャンネルのワイヤレストランスミッター機能の有効/無効を切り替えることができます。

詳しくは、「ワイヤレストランスミッター機能の有効/無効を切り替える」(42ページ)をご覧ください。

チャンネルエクスパンダー設定

エクスパンダー設定により、あるチャンネルの低レベルのバックグラウンドノイズの音量を下げるかどうかを決定できます。

詳しくは、「エクスパンダー設定の有効/無効を切り替える」(75ページ)をご覧ください。

ライブストリーミングモード設定

ライブストリーミングモードに設定してUSB-C®ケーブルでパソコンと接続すると、システムがオーディオインターフェイスとして認識されるようになります。この設定により、オンラインのオーディエンスに向けてライブ演奏したり、パソコンのデジタルオーディオワークステーション(DAW)に直接音声を録音したりできます。

セットアップシナリオのサンプル画像は、53ページをご覧ください。

注: ライブストリーミングモードでは、パソコンへの音声の送信はできますが、受信はできません。USB再生には対応していません。

ライブストリーミングモードについて

ライブストリーミングモードを有効にすると、システムはチャンネル1、2、3のデュアルモノラルミックスを接続されたパソコンに送ります。

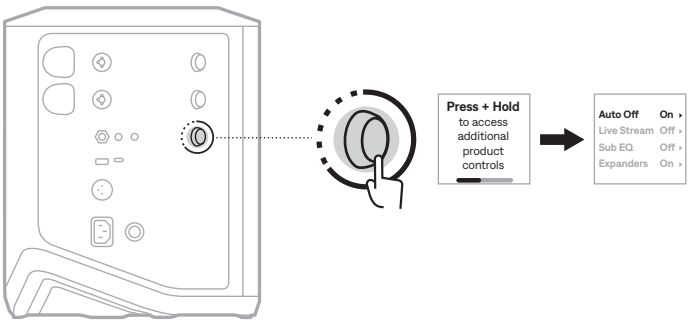
このモードでは、チャンネルの音量操作ボタンがミキサーのフェーダーのように動作します。チャンネル操作ボタンまたはBoseアプリでチャンネルの音量を調節すると、パソコンに送信されるミックスの中でそのチャンネルのレベルが調節されます。

チャンネル3にはモニター音量のコントロールも表示されるので、パソコンのミックスに影響を与えることなく、システムスピーカーのマスターボリュームを調節できます(33ページを参照)。

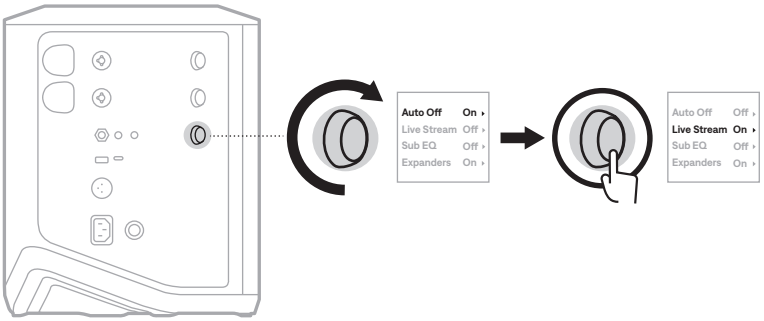
ライブストリーミングモードを有効にすると、無効にするかシステムの電源をオフにするまで有効のままになります。

ライブストリーミングモードの有効/無効を切り替える

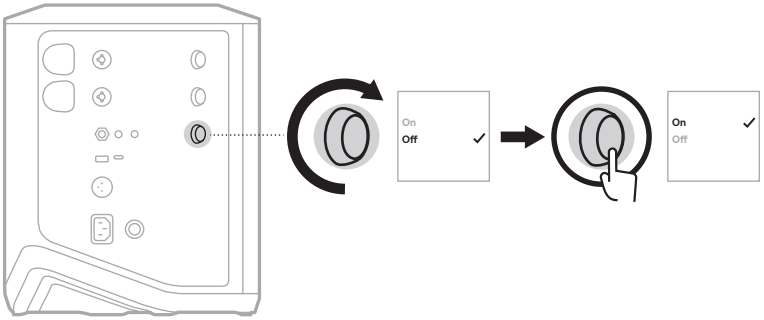
1. チャンネル3のチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを回して「**Live Stream**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



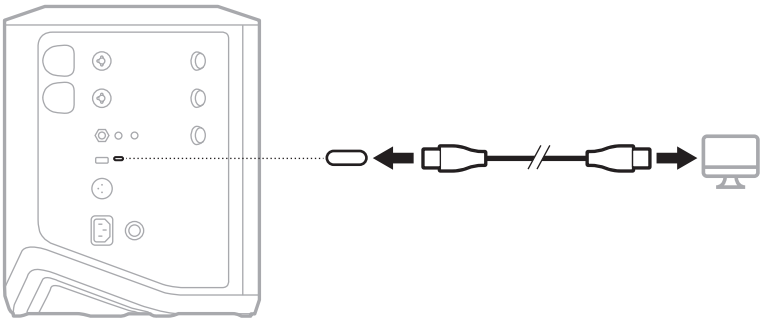
3. チャンネル操作ボタンを回して、以下の設定をハイライト表示させ、操作ボタンを押して希望する設定を選択します。
   - **On**: ライブストリーミングモードを有効にし、パソコンとの接続時にオーディオインターフェイスとして認識されるようにします。
   - **Off** (デフォルト): ライブストリーミングモードを無効にし、パソコンとの接続時にオーディオインターフェイスとして認識されないようにします。



4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

システムをパソコンに接続する

1. USB-Cケーブル(別売)の一方をシステムのUSB-C端子に接続します。
2. もう一方をパソコンに接続します。

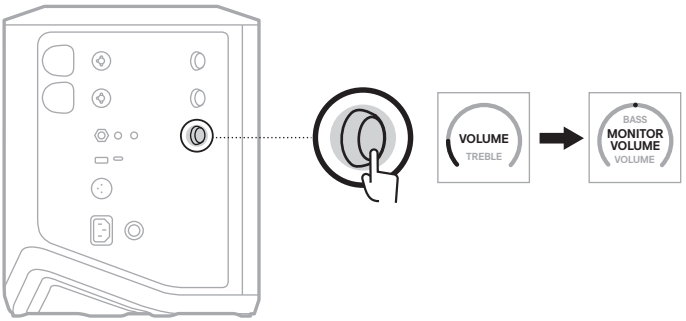


ライブストリーミングモードでモニター音量を調節する

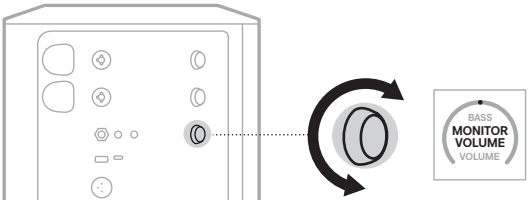
ライブストリーミングモードが有効な場合、チャンネル3のチャンネル操作ボタンを使用して、パソコンに送られるミックスに影響を与えることなく、システムスピーカーのマスターボリュームを調節できます。

注: Boseアプリではモニター音量を調節できません。

1. チャンネルディスプレイに「**MONITOR VOLUME**」と表示されるまで、チャンネル3のチャンネル操作ボタンを長押しします。



2. モニター音量を調節するには、チャンネル操作ボタンを回します。



注: 10秒以上操作しないと、チャンネルディスプレイが「VOLUME」に戻ります。

サブEQ設定

サブEQ設定は、パワードサブウーファーをシステムのLINE OUT端子に接続するセットアップシナリオでシステムEQを最適化するためのクロスオーバー設定です。

サブEQはどのパワードサブウーファーでも使用できますが、最適なパフォーマンスを得るには、Bose Sub1またはSub2 Powered Bass Moduleをお勧めします。

サブEQを有効にすると、無効にするかシステムの電源をオフにするまで有効のままになります。

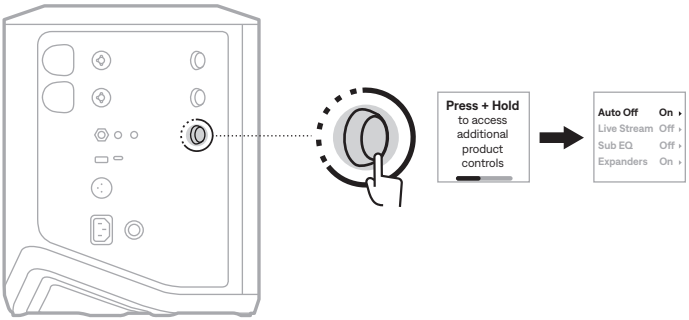
セットアップシナリオのサンプル画像は、52ページをご覧ください。

注記:

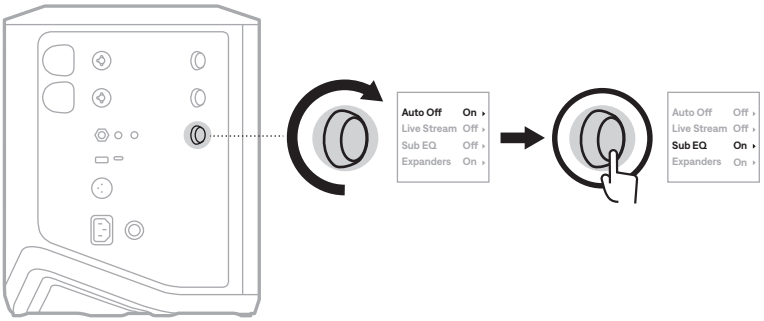
- Bose Sub1またはSub2 Powered Bass Moduleにシステムを接続する方法については、Bose Sub1/Sub2 Powered Bass Moduleの取扱説明書をご覧ください。次のサイトをご参照ください: support.Bose.com/Sub1またはsupport.Bose.com/Sub2
- Boseアプリを使用してサブEQの有効/無効を切り替えることもできます。このオプションは設定メニューから設定できます。

サブEQの有効/無効を切り替える

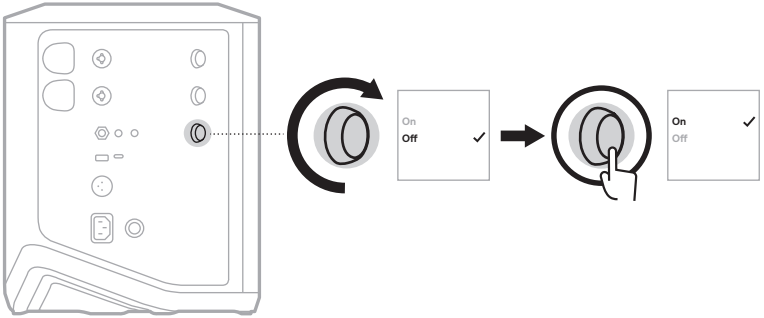
1. チャンネル3のチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを回して「**Sub EQ**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



3. チャンネル操作ボタンを回して、以下の設定をハイライト表示させ、操作ボタンを押して希望する設定を選択します。
   - **On**: サブEQの設定を有効にします。
   - **Off** (デフォルト): サブEQの設定を無効にします。



4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

チャンネルとチャンネルリバーブ効果のミュート

Boseアプリで、チャンネルのミュートや、チャンネルのリバーブ効果のミュートが可能です。メイン画面からチャンネルミュートとリバーブミュートの設定にアクセスできます。

注記:

- チャンネルのミュートを解除するには、Boseアプリを使用するか、チャンネル操作ボタンを回します。
- チャンネルのリバーブ設定のミュートを解除するには、Boseアプリ使用するか、チャンネル操作ボタンでリバーブを調節します(25ページを参照)。

シーンを保存する

チャンネルやシステムの設定をBoseアプリのシーンとして保存し、後で簡単に再アクセスできるようにすることができます。このオプションはメイン画面から設定できます。

デュアルワイヤレスストリーミングの有効/無効を切り替える

Boseアプリのデュアルワイヤレスストリーミング機能により、本システムと互換性のある別のBoseシステムの*Bluetooth*オーディオをデュアルモノラルまたはステレオで同時に再生できます。このオプションは設定メニューから設定できます。

セットアップシナリオのサンプル画像は、53ページをご覧ください。

対応するシステムは次のとおりです。

- Bose S1 Pro+ ワイヤレスPAシステム
- Bose L1 Pro8およびL1 Pro16 Portable Line Array System
- Bose L1 Pro32 Portable Line Array

システムは今後も随時追加される予定です。

TONEMATCHプリセットをカスタマイズする

Boseアプリを使用したToneMatchプリセットのカスタマイズについては、28ページをご覧ください。

対応するワイヤレストランスミッター

オプションのBoseワイヤレストランスミッターのアクセサリーを使用して、チャンネル1、2に内蔵されたワイヤレスレシーバーを介して楽器やマイクをワイヤレスでシステムに接続できます。

システムは以下のトランスミッターアクセサリーに対応しています。

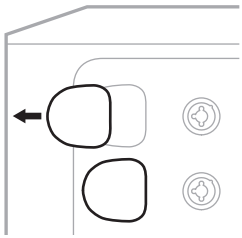
- Boseワイヤレス機器トランスミッター
- Boseワイヤレスマイク/ラインストランスミッター

これらのアクセサリーやその他のシステムアクセサリーを購入するには、次のサイトをご参照ください: support.Bose.com/S1ProPlus

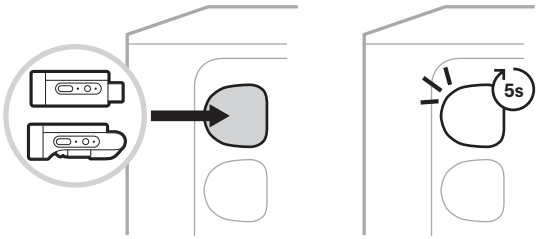
ワイヤレストランスミッターとチャンネル1または2をペアリングする

1. システムのバッテリー残量が不足している場合は、システムを電源に接続してください(18ページを参照)。

2. チャンネル1または2のワイヤレストランスミッターの充電ポートからキャップを取り外します。



3. トランスミッターを充電ポートにカチッと音がするまで完全に差し込み、トランスミッターがそのチャンネルとペアリングされるまで5秒待ちます。

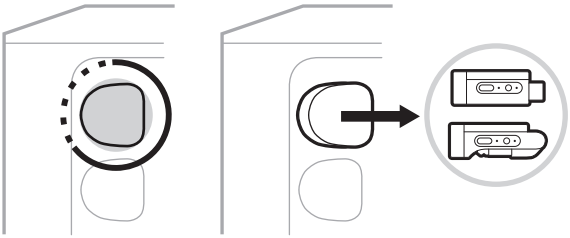


トランスミッターが充電を開始します(55ページを参照)。

注: トランスミッターは同時に1つのチャンネルとしかペアリングできません。トランスミッターと現在のチャンネルのペアリングを解除し、他のチャンネルとペアリングするには、そのチャンネルの充電ポートにトランスミッターを挿入します。

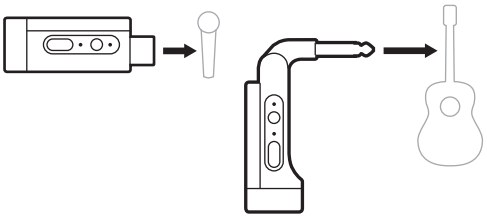
ペアリングしたワイヤレストランスミッターをオーディオソースに接続する

1. システムの電源をオンにします(18ページを参照)。
2. ワイヤレストランスミッターの裏側を押し、ワイヤレストランスミッター充電ポートから離れた方向にスライドします。充電ポートから取り外します。

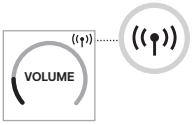


チャンネルディスプレイに、トランスミッターのバッテリー残量を示すバッテリーアイコンが短く表示されます。

3. トランスミッターをオーディオソースに接続します。



4. トランスミッターの電源をオンにします(39ページを参照)。数秒後、チャンネルディスプレイにトランスミッターのアイコンが表示され、トランスミッターの接続インジケーターが青く点灯して、トランスミッターが接続されたことを示します(63ページを参照)。



5. Boseワイヤレスマイク/ラインストランスミッターを使用している場合、ソースの入力要件に合わせて、必要に応じてマイク入力とライン入力の設定を変更します(40ページを参照)。

ワイヤレストランスミッターの電源をオン/オフする

電源ボタン ⏻ を押します。

電源がオンになると、電源インジケーターが白く点灯します(62ページを参照)。

自動オフタイマー

ワイヤレストランスミッターが使用されない状態が続くと自動オフタイマーが働き、消費電力を抑えます。オーディオが停止してから30分間トランスミッターのボタンを押さなかった場合、トランスミッターの電源が切れます。

ワイヤレストランスミッターをミュート/ミュート解除する

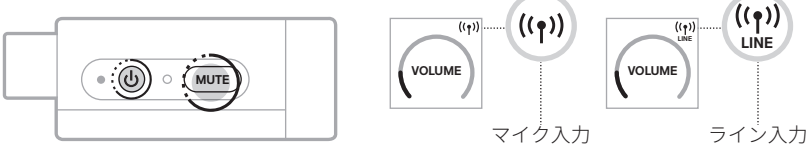
チャンネルの音声をミュート/ミュート解除するには、「**MUTE**」ボタンを押します。

音声をミュートすると、接続インジケーターが緑で点滅します(62ページを参照)。

マイク入力とライン入力を切り替える

Boseワイヤレスマイク/ライントランスミッターでは、ソースの入力要件に合わせてマイク入力とライン入力の設定を変更できます。

それには、チャンネルディスプレイのトランスミッターアイコンが新しい入力設定に変わるまで、電源ボタン⏻と「**MUTE**」ボタンを長押しします。



ワイヤレストランスミッターを使用する際にチャンネルインサートにエフェクターを接続する

「Insert」が「Auto」に設定されているチャンネル(41ページを参照)にワイヤレストランスミッターを接続すると、¼″ (6.35 mm) TRSチャンネル入力が直列チャンネルインサート(エフェクトループとも呼ばれる)になります。インサートケーブルでエフェクターやペダルを入力に接続し、楽器やマイクをワイヤレスで使用できます。

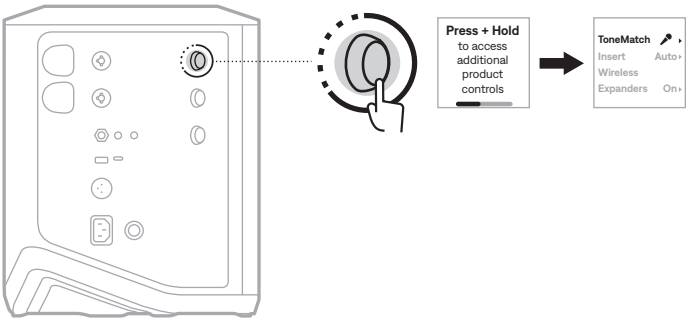
セットアップシナリオのサンプル画像は、47ページをご覧ください。

注記:

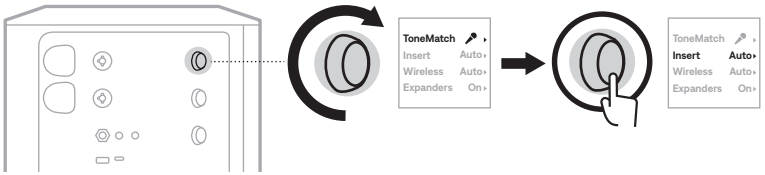
- チャンネルインサートにエフェクターを接続するには、インサートケーブル(¼″ (6.35 mm) TRS - デュアル ¼″ (6.35 mm) TS)が必要です。インサートケーブルはお近くの楽器販売店などでお求めになれます。
- ワイヤレストランスミッターがチャンネルに接続されているときに、標準¼″ (6.35 mm)ケーブルで楽器やその他のオーディオソースを入力に接続しないでください。接続すると、有線と無線の両方のソースから音声が再生されなくなります。

チャンネルインサート機能の有効/無効を切り替える

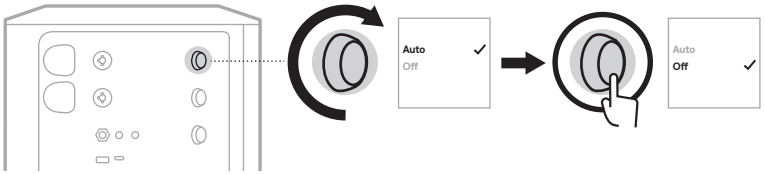
1. チャンネル1または2のどちらかのチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを回して「**Insert**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



3. チャンネル操作ボタンを回して、以下の設定をハイライト表示させ、操作ボタンを押して希望する設定を選択します。
   - **Auto** (デフォルト): 電源をオンにしたワイヤレストランスミッターをこのチャンネルに接続すると、¼″ (6.35 mm) TRSチャンネル入力は直列エフェクトループに変換されます。
   - **Off**: 電源をオンにしたトランスミッターをこのチャンネルに接続すると、チャンネル入力からの信号は無視されます。

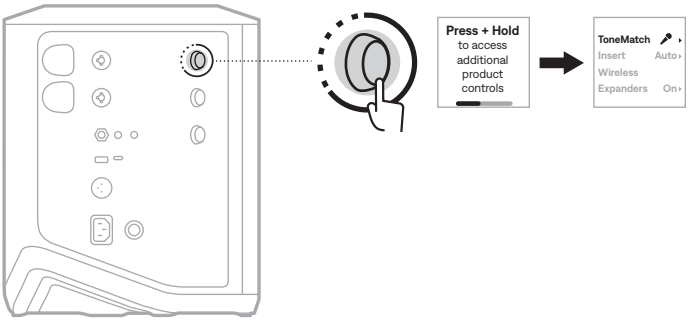


4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

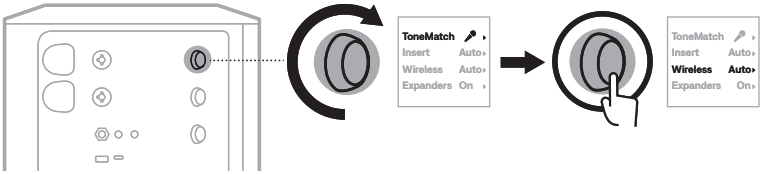
ワイヤレストランスミッター機能の有効/無効を切り替える

注: チャンネルのワイヤレス設定にかかわらず、ワイヤレストランスミッター充電ポートに挿入したワイヤレストランスミッターを充電できます。

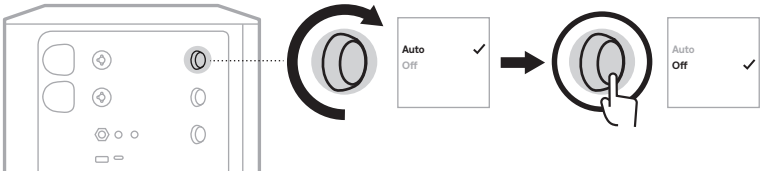
1. チャンネル1または2のどちらかのチャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを回して「**Wireless**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



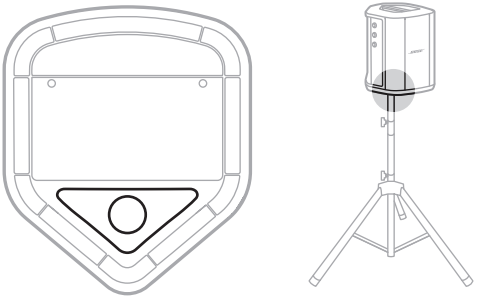
3. チャンネル操作ボタンを回して、以下の設定をハイライト表示させ、操作ボタンを押して希望する設定を選択します。
   - **Auto** (デフォルト): チャンネルのワイヤレス機能を有効にします。以前ペアリングしたことのあるトランスミッターはチャンネルに接続できます。また、新しいトランスミッターはワイヤレストランスミッター充電ポートに挿入することでチャンネルにペアリングできます。
   - **Off**: ワイヤレスの干渉を避ける必要がある場合に、チャンネルのワイヤレス機能を無効にします。以前ペアリングしたことのあるトランスミッターはチャンネルに接続できません。また、新しいトランスミッターはチャンネルにペアリングできません。



4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

スピーカースタンドに取り付ける

システムの底面には、スピーカースタンドにシステムを取り付けるためのポールカップが付属しています。ポールカップには、標準的な35 mmのポストを装着できます。システムをスピーカースタンドに設置すると、EQが自動的に更新され、最適なトーンバランスが保たれます。



警告: Bose S1 Pro+ ワイヤレスPAシステムを不安定な三脚(スタンド)で使用しないでください。本製品と三脚(スタンド)は、35 mm径のネジで固定するように設計されています。全体のサイズが332.6 x 240 x 279.8 mm、最低重量が6.8 kgのスピーカーを確実に保持できる三脚(スタンド)を使用してください。Bose S1 Pro+ワイヤレスPAシステムのサイズと重量を支えるように設計されていない三脚(スタンド)を使用すると、不安定で危険な状態となり、負傷につながる可能性があります。

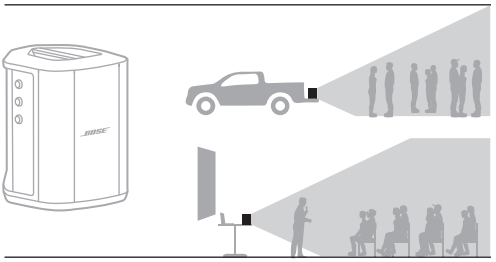
システム構成

Bose S1 Pro+ ワイヤレスPAシステムは4つのポジションで使用できます。Auto EQにより、システムが自動的にEQ補正を行い、各ポジションに最適な音質バランスを維持します。

注: また、システムのBoseロゴを反時計回りに回転させて、自分の位置に合わせることも可能です。

テーブル上に設置

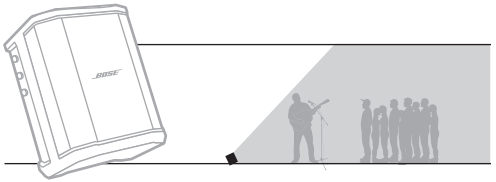
システムを高さのある平面上に設置することで、オーディエンスにクリアで均一な音を投射できます。



後ろに傾ける

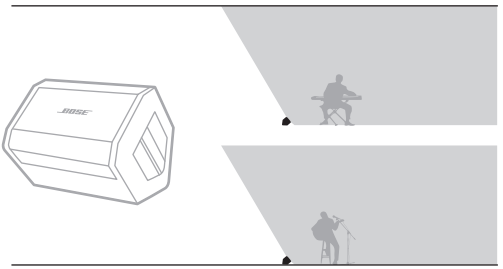
オーディエンスとの距離が近い演奏では、システムを後ろに傾けます。

最高のパフォーマンスを得るには、音の妨げにならないように、システムの横に立つか座ります。



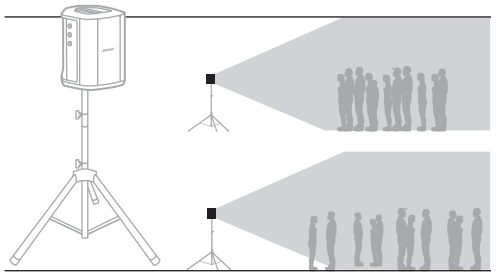
横向きにして床置きモニターとして使用

システムを個人用のフロアモニターとして使用するには、側面を下にして傾け、演奏者の前の地面に水平に置きます。

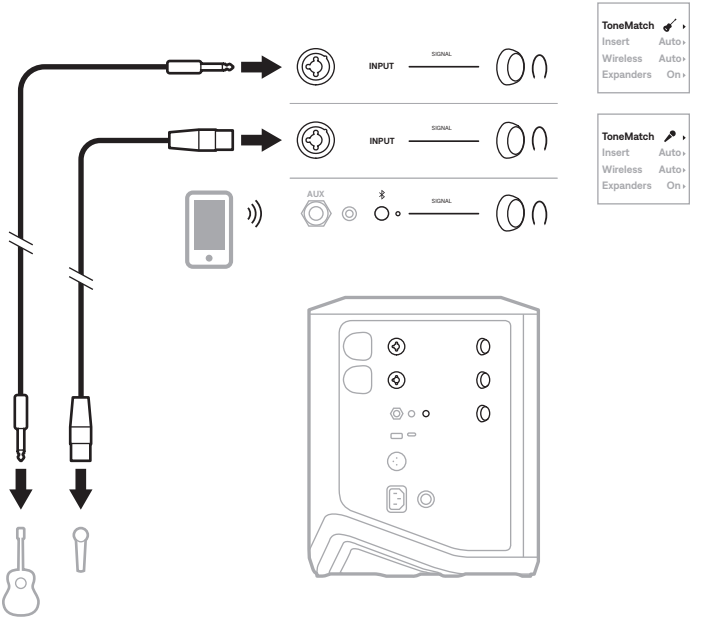


スピーカースタンドを使用

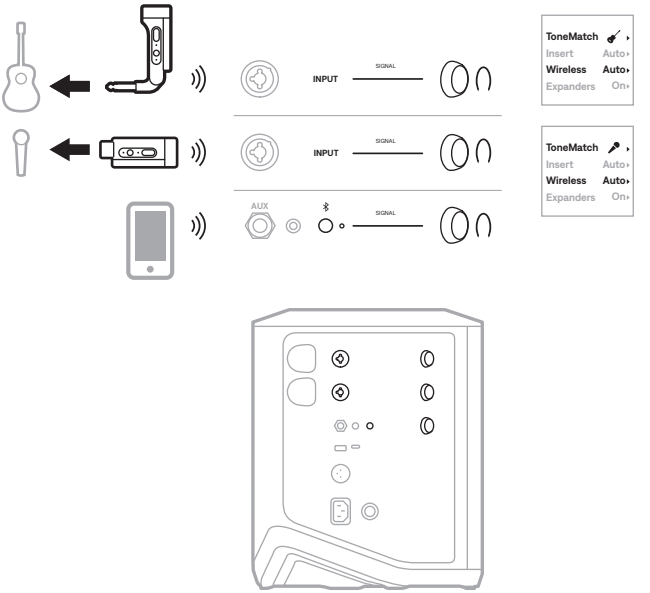
一般的なPAスピーカーとして使用するには、1台または複数台のシステムをスピーカースタンド(別売)にセットします。



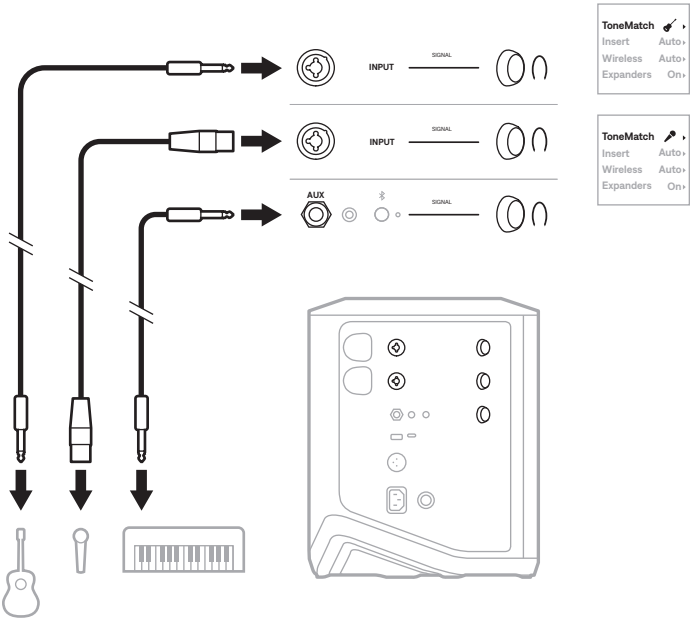
ミュージシャン＋モバイル機器



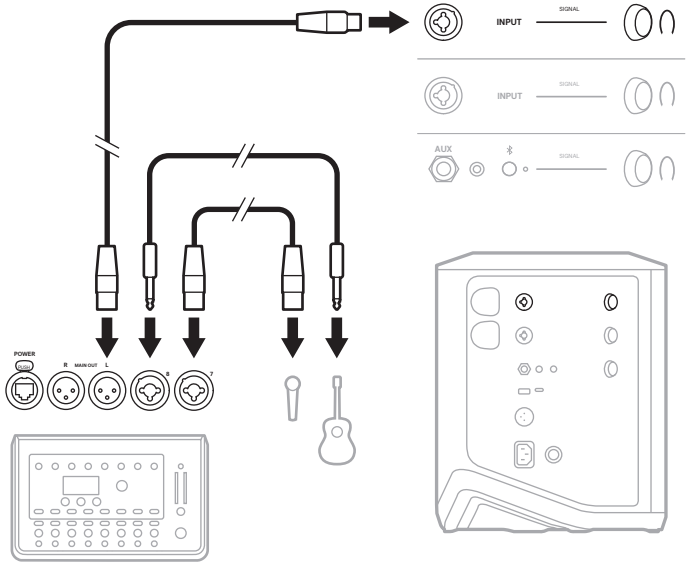
ミュージシャン＋モバイル機器、ワイヤレストランスミッター



複数の楽器

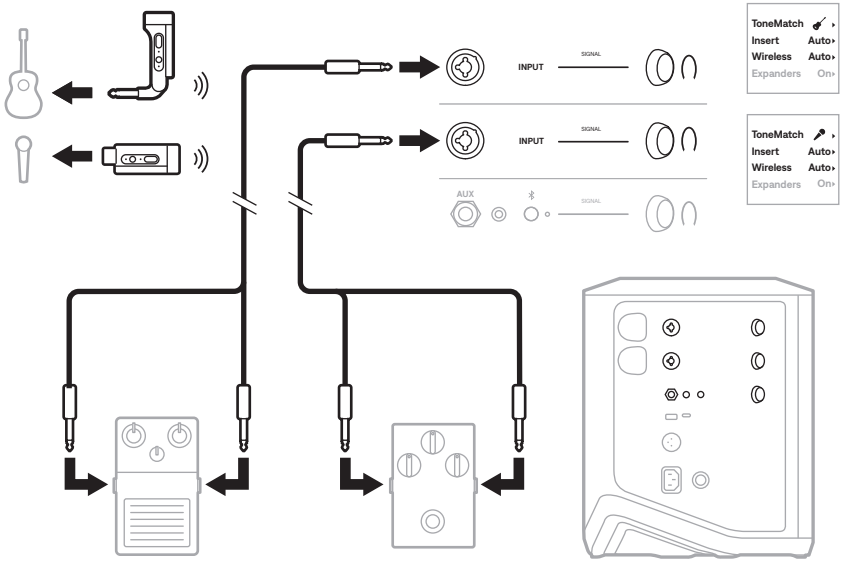


演奏者とエフェクトミキサー



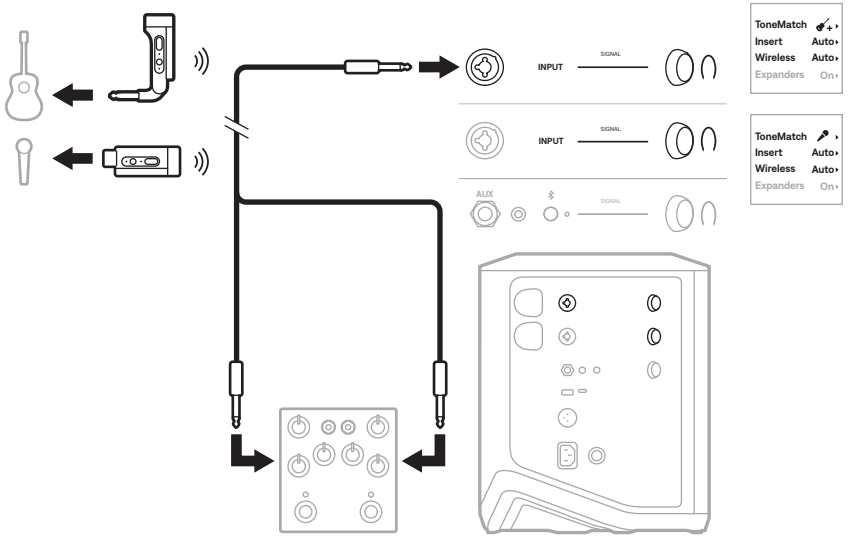
ミュージシャン＋ワイヤレストランスミッター、エフェクター / ペダル、ボーカルプロセッサー

注: AC電源のエフェクターを使用する際は、グラウンドノイズ除去デバイスが必要となる場合があります。グラウンドノイズ除去デバイスはお近くの楽器販売店などでお求めになれます。



ギタリスト＋ワイヤレストランスミッター、ギターアンプモデリングペダル

ギターアンプモデリングペダルを使用する場合、最高のパフォーマンスを得るには、Boseアプリを使用して、そのチャンネルの**Full Range Flat Response (FRFR)** ToneMatchプリセットを選択します。



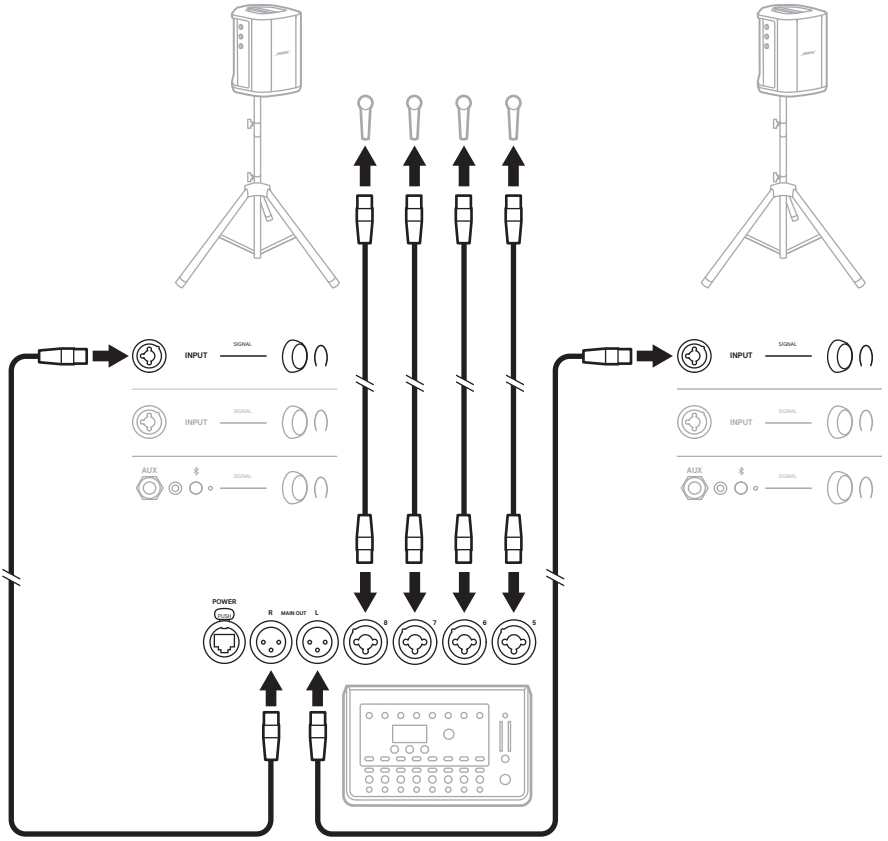
一般的なPA

2台のシステムをステレオまたはモノラルで接続し、通常のPAシステムとして使用できます。

ステレオ

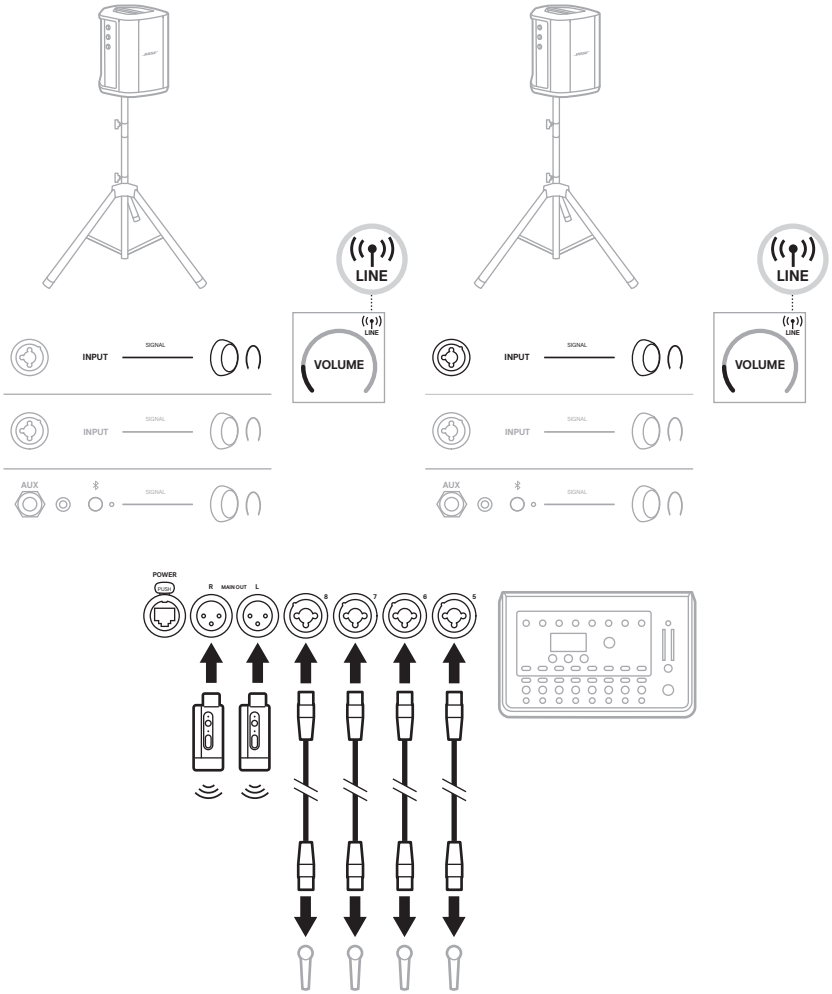
ミキサーを経由してステレオ接続する場合、両方のシステムでリバーブを最小に設定し、ミキサーのラインアウトに接続するチャンネルでToneMatchを「**Off**」に設定します(25ページおよび27ページを参照)。

ステレオ(ケーブル接続)



ステレオ(ワイヤレス接続)

Boseワイヤレスマイク/ライントランスミッターをミキサーに接続する前に、各トランスミッターの入力設定をライン入力に設定してください(40ページを参照)。

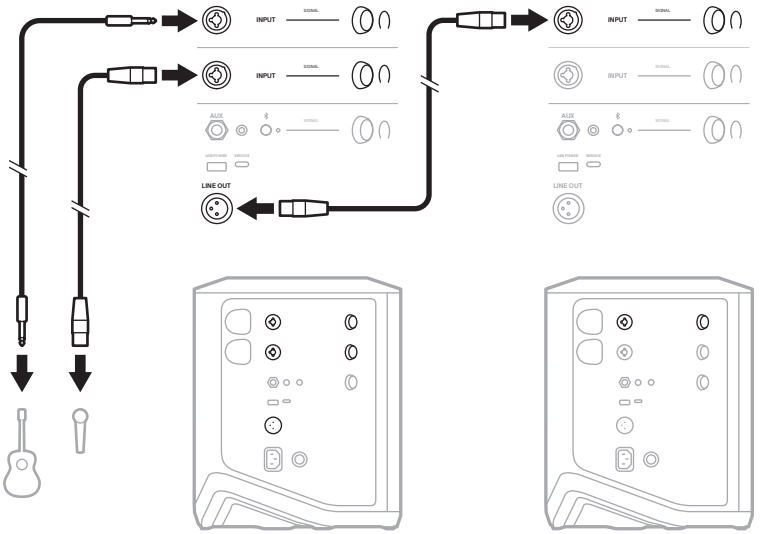


デュアルモノラル/デイジーチェーン

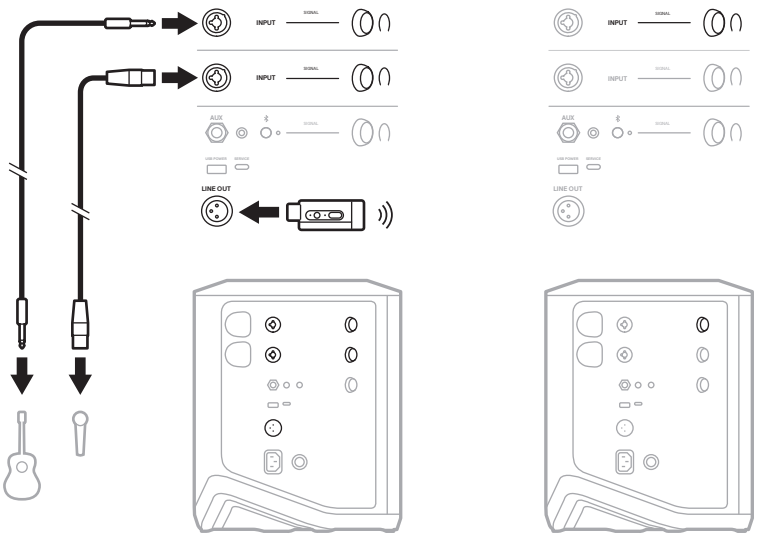
システムをデュアルモノラルで接続する場合、セカンダリシステムでは、プライマリシステムのライン出力を接続するチャンネルで以下の設定を調整します。

- リバーブを最小に設定します(25ページを参照)。
- ToneMatchを「**Off**」に設定します(27ページを参照)。
- 低音と高音をニュートラルの位置に設定します(24ページを参照)。

デュアルモノラル(ケーブル接続)



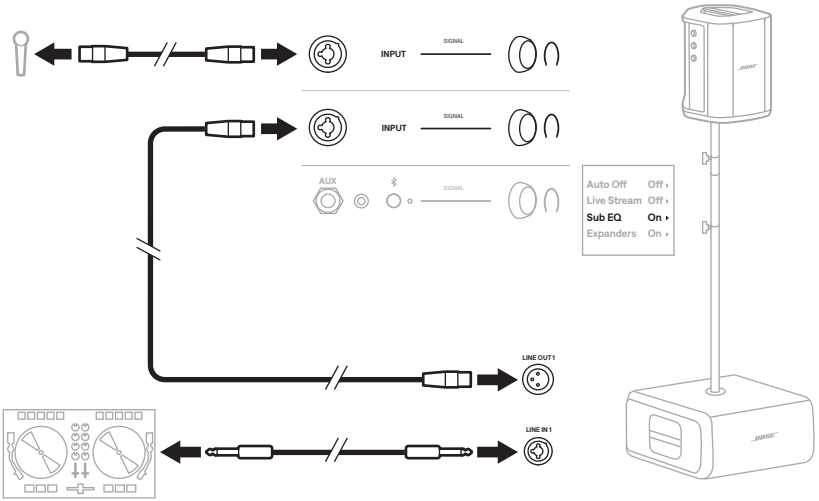
デュアルモノラル(ワイヤレス接続)



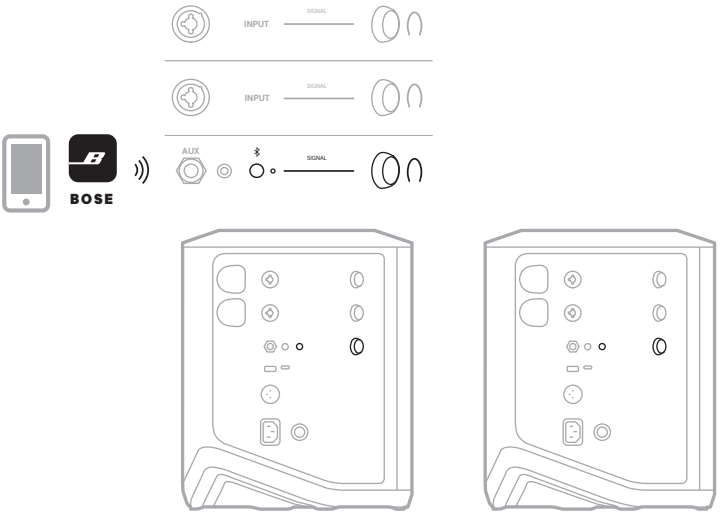
DJ と BOSE SUB1 または SUB2 POWERED BASS MODULE

詳しい接続方法は、Bose Sub1/Sub2 Powered Bass Module の取扱説明書をご覧ください。

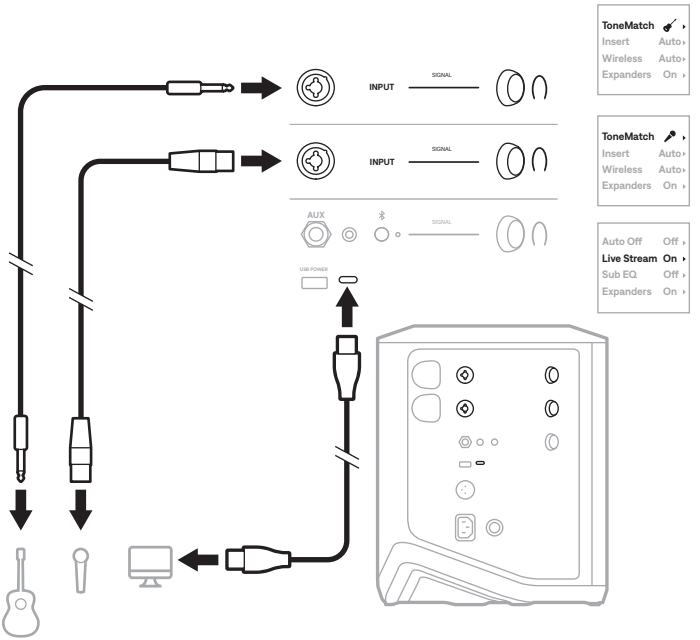
次のサイトをご参照ください: support.Bose.com/Sub1
support.Bose.com/Sub2



BOSEアプリによるデュアルワイヤレスストリーミング



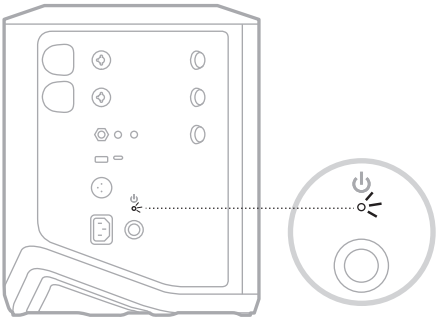
ミュージシャンのパソコンへの録音またはライブストリーミング



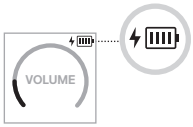
システムバッテリーを充電する

システムバッテリーを充電するには、システムを電源に接続します(18ページを参照)。

システムの電源がオフの場合は、電源インジケーターが白く点滅し、システムバッテリーが充電中であることを示します。バッテリーの充電が完了すると、電源インジケーターが消灯します。



システムの電源がオンの場合は、チャンネル3のディスプレイのバッテリーアイコンの横に稲妻のアイコンが表示され、システムバッテリーが充電中であることを示します。バッテリーの充電が完了すると、稲妻のアイコンが消えます(61ページを参照)。



注意: システムが濡れた状態で充電しないでください。システムが破損する恐れがあります。

充電時間

システムバッテリーを完全に充電するには最長4時間かかります。

通常音量での音楽再生であれば、バッテリーで約11時間の連続再生が可能です。バッテリーで再生できる時間と充電に必要な時間は、再生する内容と音量の設定によって異なります。

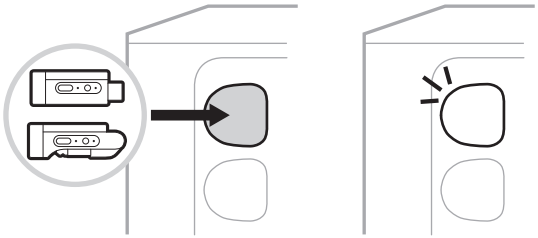
システムバッテリーの充電状態を確認する

システムバッテリーの残量と充電状態を確認するには、チャンネル3のディスプレイのバッテリーアイコンを確認します(61ページを参照)。

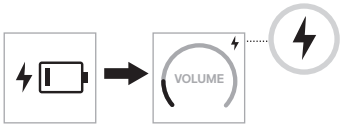
ワイヤレストランスミッターを充電する

充電ポートを使用する

ワイヤレストランスミッターをチャンネル1または2のワイヤレストランスミッター充電ポートにカチッと音がするまで完全に差し込みます。



システムの電源がオンの場合は、チャンネルディスプレイのバッテリーアイコンの横に稲妻のアイコンが表示され、トランスミッターのバッテリーが充電中であることを示します。その後、ディスプレイの右上隅に稲妻のアイコンが表示されます。トランスミッターの充電が完了すると、稲妻のアイコンが消えます(60ページを参照)。

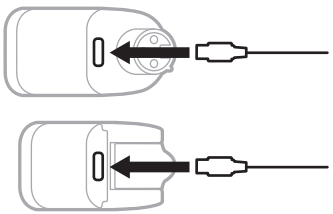


注: システムが電源に接続されている場合は、接続されたAC電源によってトランスミッターが充電されます。システムがバッテリーで動作している場合は、システムバッテリーによってトランスミッターが充電されます。

ウォールチャージャーまたはパソコンを使用する

注: この製品には、法令(UL、CSA、VDE、CCCなど)に準拠したLPS電源アダプターのみをお使いください。

1. USB-Cケーブル(別売)の一方をワイヤレストランスミッター上部のUSB-C端子に接続します。



2. もう一方のプラグをUSB-Aウォールチャージャーまたはパソコンに接続します。

   電源インジケーターが白く点灯します(62ページを参照)。トランスミッターの充電が完了すると、電源インジケーターが消灯します。

充電時間

ワイヤレストランスミッターを完全に充電するには最長2時間かかります。

通常音量での音楽再生であれば、バッテリーで約5時間の連続再生が可能です。

ワイヤレストランスミッターのバッテリー残量を確認する

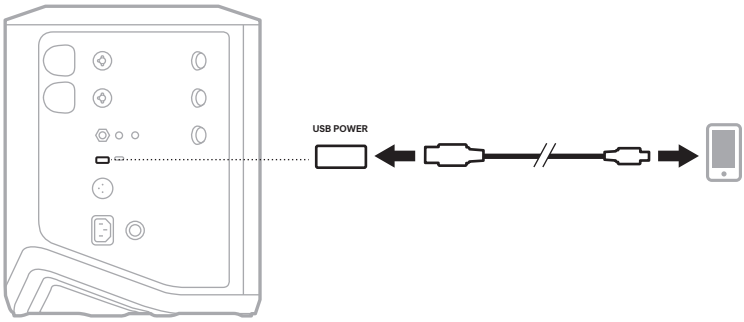
ワイヤレストランスミッターのバッテリー残量を確認するには、ワイヤレストランスミッター充電ポートからトランスミッターを取り外し、チャンネルディスプレイのバッテリーアイコンを確認します(60ページを参照)。

システムが近くにない場合は、トランスミッターの電源を入れて電源インジケーターの状態を確認する方法でも、トランスミッターのバッテリー残量を確認できます(62ページを参照)。

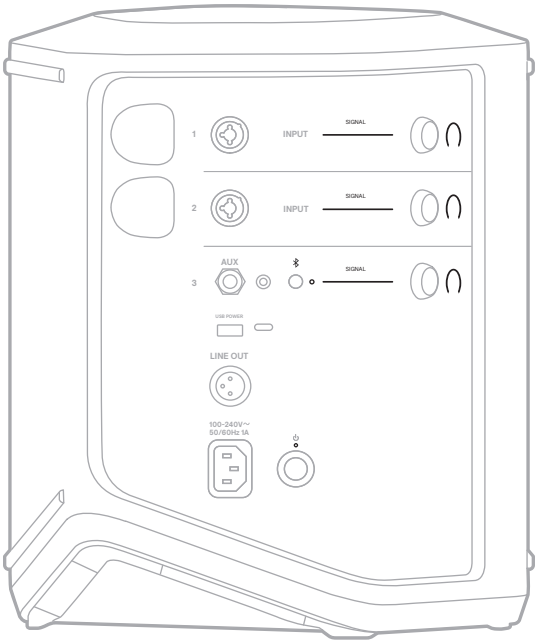
USB充電ポートを使用してモバイル機器を充電する

モバイル機器の充電には、システムバッテリーまたはAC電源を使用します。

1. USB-A充電ケーブル(別売)の一方をシステムの**USB POWER**端子に接続します。
2. もう一方をモバイル機器に接続します。



システムの側面にあるシグナル/クリップインジケーター、電源インジケーター、*Bluetooth*インジケーター、チャンネルディスプレイには、システムの状態が表示されます。



シグナル/クリップインジケーター

チャンネル1、2、3の信号またはクリップの状態を示します。

インジケーターの状態	システムの状態
緑の点灯	信号が存在します。
赤の点灯	信号でクリッピングが発生しているか、システムがリミッターを適用しています。 **注:** チャンネルまたはソースの音量を下げることで、信号のクリッピングやリミッターの適用を防ぐことができます。

電源インジケーター

システムの電源と充電の状態を示します。

インジケーターの状態	システムの状態
白の点灯	電源がオンです。
白の点滅(システムの電源がオフで電源に接続されている場合)	充電しています。
赤の点灯	システムエラーです。システムの電源をオフにしてから、オンにしてください(18ページを参照)。引き続きエラーが発生する場合は、Boseカスタマーサービスまでお問い合わせください。
赤の遅い点滅	サーマルエラーです。システムを冷却して温度を下げてください。
赤の速い点滅	バッテリーエラーです。Boseカスタマーサービスへお問い合わせください。

*BLUETOOTH*インジケーター

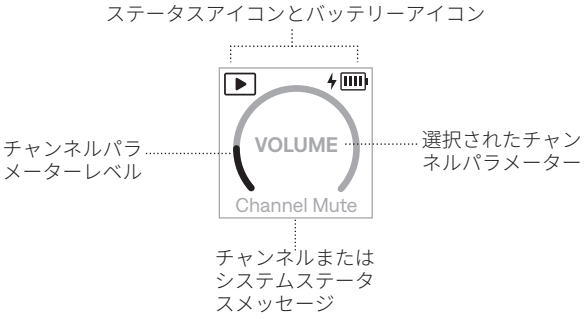
*Bluetooth*接続の状態を示します。

インジケーターの状態	システムの状態
青の点滅	接続準備が完了しました。
白の点灯	接続済みです。
白の3回点滅	デバイスリストを消去しました。

チャンネルディスプレイ

各チャンネル、システム、接続されているワイヤレストランスミッターの状態や設定内容を表示します。

チャンネルディスプレイの読み方



ステータスアイコン

ステータスアイコンは、チャンネルとシステムの設定を示します。

アイコン	意味
	デフォルトのInstrument ToneMatchプリセットがチャンネルに適用されます。
	カスタムのInstrument ToneMatchプリセットがチャンネルに適用されます。
	デフォルトのMicrophone ToneMatchプリセットがチャンネルに適用されます。
	カスタムのMicrophone ToneMatchプリセットがチャンネルに適用されます。
	ライブストリーミングモードが有効です。
	チャンネルにワイヤレストランスミッターが接続されています。 **注:** トランスミッターがBoseワイヤレスマイク/ラインストランスミッターの場合、このアイコンはトランスミッターの入力設定がマイク入力に設定されていることを示します。
	チャンネルにBoseワイヤレスマイク/ラインストランスミッターが接続され、トランスミッターの入力設定がライン入力に設定されています。

バッテリーアイコン

バッテリーアイコンは、チャンネルディスプレイに応じて、システムまたはペアリングされたワイヤレストランスミッターのバッテリー残量と充電状態を示します。

チャンネル1、2のディスプレイ

チャンネル1、2のディスプレイのバッテリーアイコンは、ペアリングしたワイヤレストランスミッターのバッテリー残量と充電状態を示します。バッテリーアイコンは全画面に重なるように短時間表示され、アイコンが消えると、ディスプレイの右上隅に稲妻のアイコン表示が残ります。

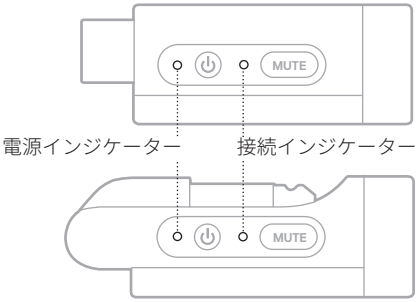
アイコン	ワイヤレストランスミッターのバッテリー残量
	67% ～ 100%
	34% ～ 66%
	10% ～ 33%
	0% ～ 9%
	67% ～ 100%、充電中
	34% ～ 66%、充電中
	10% ～ 33%、充電中
	0% ～ 9%、充電中
	充電中

チャンネル3のディスプレイ

チャンネル3のディスプレイのバッテリーアイコンは、システムのバッテリー残量と充電状態を示します。アイコンはディスプレイの右上隅に表示されます。

アイコン	システムのバッテリー残量
	67% ～ 100%
	34% ～ 66%
	10% ～ 33%
	0% ～ 9%
	67% ～ 100%、充電中
	34% ～ 66%、充電中
	10% ～ 33%、充電中
	0% ～ 9%、充電中

ワイヤレストランスミッターの電源インジケーターと接続インジケーターは、トランスミッターの状態を示します。



電源インジケーター

トランスミッターの電源、バッテリー残量、充電状態、エラー状態を示します。

インジケーターの状態	システムの状態
白の4回点滅(電源オン)	バッテリー残量75% ～ 100%
白の3回点滅(電源オン)	バッテリー残量50% ～ 75%
白の2回点滅(電源オン)	バッテリー残量25% ～ 50%
白の1回点滅(電源オン)	バッテリー残量10% ～ 25%
白の点灯	電源オンまたは充電中
赤の点滅	トランスミッターのバッテリー残量低下
赤の点灯	エラー、Boseカスタマーサービスに連絡してください

接続インジケーター

トランスミッターの接続状態、ミュート状態を示します。

インジケーターの状態	システムの状態
青の点灯	接続済み
青の点滅	ミュート中

モバイル機器を接続する

接続方法については、21ページをご覧ください。

モバイル機器の接続を解除する

モバイル機器の*Bluetooth*機能をオフにします。

注: *Bluetooth*機能を無効にすると、他の機器との接続もすべて解除されます。

モバイル機器を再接続する

システムの電源をオンにすると、最後に接続していたモバイル機器に再接続します。

注記:

- モバイル機器が通信範囲内(9 m)にあり、電源が入っている必要があります。
- モバイル機器の*Bluetooth*機能が有効であることを確認します。

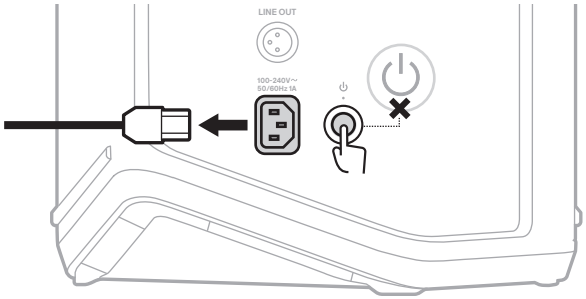
システムのデバイスリストを消去する

1. *Bluetooth*インジケーターが白く3回点滅するまで、*Bluetooth*ボタン ᛒ を10秒間長押しします。
2. モバイル機器の*Bluetooth*リストからシステムを削除します。

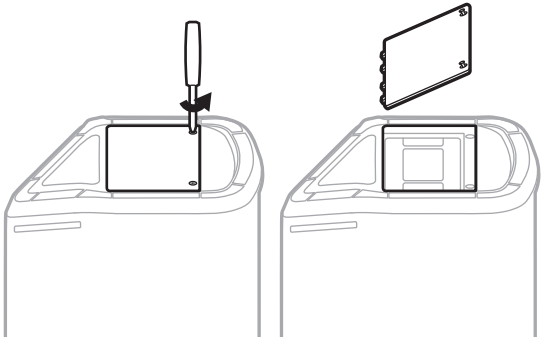
   すべての機器が消去され、システムが新しい機器と接続可能な状態になります(64ページを参照)。

システムバッテリーを交換する

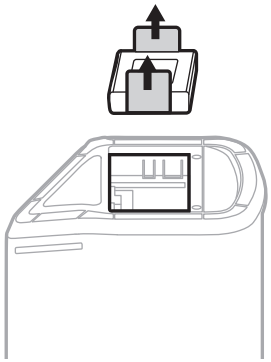
1. 電源ボタン ⏻ を押してシステムの電源をオフにし、電源コードをコンセントから抜きます。



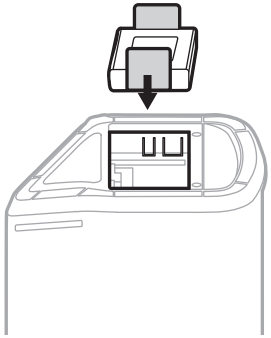
2. システムを逆さまにします。2本のねじを緩めて、底部のプレートを取り外します。



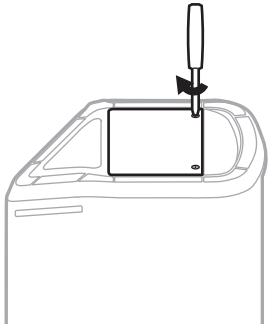
3. プルタブを引いて古いバッテリーを取り外します。



4. コネクターピンに合わせて、新しいバッテリーを挿入します。

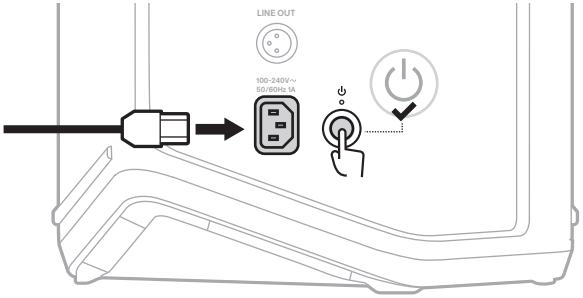


5. 底部のプレートを元に戻し、2本のねじをしっかりと締めます。



6. システムを電源に接続します。

7. 電源ボタン ⏻ を押してシステムの電源をオンにします。



注: 交換したバッテリーは、システムをAC電源に接続して電源をオンにするまではスリープモードのままです。

システムをアップデートする

システムソフトウェアのアップデートを確認し、ダウンロードするには、パソコンでbtu.Bose.comにアクセスします。

詳細な手順については、次のサイトをご参照ください:
support.Bose.com/S1ProPlusUpdate

注: システムをアップデートするには、USB-Cケーブル(別売)を使用してシステムをパソコンに接続する必要があります。詳しくは、32ページをご覧ください。

ワイヤレストランスミッターをアップデートする

ワイヤレストランスミッターをいずれかの充電ポートに挿入すると、システムはソフトウェアアップデートが利用可能かどうかを確認します。可能な場合は、チャンネルディスプレイの指示に従ってアップデートをインストールしてください。

システムのお手入れについて

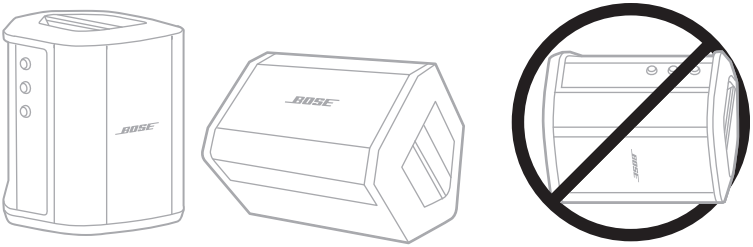
システムの外装は柔らかい布でから拭きしてください。必要な場合は、システムのグリルを掃除機で掃除してください。

注意:

- システムの近くでスプレー等を使用しないでください。
- 溶剤、化学薬品、またはアルコール、アンモニア、研磨剤などを含むクリーニング液は使用しないでください。
- 開口部に液体が入らないようにしてください。
- 開口部に異物が入り込まないようにしてください。

システムの輸送と保管

システムの輸送や保管の際は、横置きではなく、縦置きまたはモニター置きにしてください。



注意: 横置きで保管すると、環境条件によっては破損することがあります。

注: システムを数か月以上使用しない場合は、バッテリーを完全に充電してから保管してください。

交換部品とアクセサリー

交換部品とアクセサリーは、Bose製品取扱店、弊社Webサイト、またはお電話によるご注文でご購入いただけます。

次のサイトをご参照ください: support.Bose.com/S1ProPlus

保証

製品保証の詳細はworldwide.Bose.com/Warrantyをご覧ください。

製品の登録をお願いいたします。登録は弊社Webサイト(worldwide.Bose.com/ProductRegistration)から簡単に行えます。製品を登録されない場合でも、保証の内容に変更はありません。

最初にお試しいただくこと

システムに問題が生じた場合は、下記の点をご確認ください。

- システムが接続されているコンセントに電源が供給されていることを確認します(18ページを参照)。
- システムの電源をオフにしてから、オンにします(18ページを参照)。
- すべてのケーブルをしっかりと接続します。
- ステータスインジケーターの状態を確認します(57ページを参照)。
- 利用可能なソフトウェア更新プログラムを確認してダウンロードします(67ページを参照)。

その他の対処方法

問題が解決しない場合は、次の表を参照して一般的な問題の症状と対処方法をご確認ください。トラブルシューティングの記事、ビデオ、その他のリソースにアクセスすることもできます。support.Bose.com/S1ProPlus

それでも問題が解決できない場合は、Boseカスタマーサービスまでお問い合わせください。

次のサイトをご参照ください: worldwide.Bose.com/contact

システム

症状	対処方法
システムの電源が入らない	システムバッテリーが保護モードへ移行している、あるいは放電している可能性があります。システムを電源に接続します。 電源ケーブルを別のコンセントに差し込みます。 電源コードが電源タップやサージプロテクターに接続されている場合は、コードを電源コンセントに直接差し込んでみてください。 電源コードを抜いて、システムバッテリーを取り外します(65ページを参照)。30秒待ってからバッテリーを元に戻し、電源コードを電源コンセントにしっかりと差し込みます。 システムをリセットします(77ページを参照)。再度電源をオンにします。

症状	対処方法
入力ケーブルで接続された楽器やオーディオソースの音が途切れる、聞こえない	楽器やオーディオソースがチャンネル入力にしっかりと接続されていることを確認します。 楽器やオーディオソースとシステムの音量を上げます。 シグナル/クリップインジケーターが点灯し、システムがソースからの音声信号を検知していることを確認します。 楽器やオーディオソースを他のアンプに接続して、音源が動作していることを確認します。 別の楽器やオーディオソースを接続します。 別の入力ケーブルを使用して、楽器やオーディオソースをシステムに接続してみます。 コンデンサーマイクを使用する場合は、システムに接続する前に、必ずファンタム電源(プリアンプやミキシングコンソールなど)に接続してください。 電源コードを抜いて、システムバッテリーを取り外します(65ページを参照)。30秒待ってからバッテリーを元に戻し、電源コードを電源コンセントにしっかりと差し込みます。 システムをリセットします(77ページを参照)。
システムを*Bluetooth*機器に接続できない	お使いのモバイル機器での操作: • *Bluetooth*機能をオフにしてから、もう一度オンにします。 • 機器の*Bluetooth*リストからシステムを削除します(Low Energy (LE)ラベルの付いた重複項目も含む)。もう一度接続してみます(64ページを参照)。 別のモバイル機器を接続します(64ページを参照)。 システムのデバイスリストを消去します(64ページを参照)。もう一度接続してみます。
***Bluetooth*機器の音が途切れる、聞こえない**	別のアプリケーションまたは音楽サービスからオーディオを再生します。 モバイル機器を干渉源や障害物から離して、システムに近づけます(9 m以内)。 他のオーディオ/ビデオストリーミングアプリを停止します。 お使いのモバイル機器が*Bluetooth*接続に対応していることを確認します。 モバイル機器を再起動します。 別のモバイル機器と接続して試してみてください(64ページを参照)。

症状	対処方法
楽器やオーディオソースの音が歪む	ソースの音量を下げます。オーディオソースの音量が調節できない場合は、お近くの楽器販売店で入力パッドをご購入ください。 別のソースまたは楽器で試してみてください。 チャンネル3のAUX入力に接続したモバイル機器からオーディオを再生する場合は、その機器が充電用のUSB POWERポートにも接続されていないことを確認します。接続されていると、オーディオ再生時にノイズが発生する場合があります。 そのチャンネルのエクスパンダー設定が「Off」ではなく「**On**」に設定されていることを確認します(75ページを参照)。
システムに何も接続されていないのにブーンという音がする	AC電源コンセントテスターを使用して、システムが接続されているコンセントの接点が反転していないか、またはオープンでないか(ホット、ニュートラル、グラウンド)をテストします。 システムが延長コードに接続されている場合は、代わりに電源コンセントに直接差し込んでみます。
システムに接続されたマイクからハウリングが発生する	チャンネルの音量を下げます。 マイクの向きを変えて、システムに直接向かないようにします。 別のマイクで試してみます。 システムやボーカリストの位置を変えてみます。 マイクからシステムまでの距離を離します。 ボーカル用エフェクトプロセッサーを使用している場合は、プロセッサーをバイパスして、プロセッサーの設定がハウリングに関係していないか確認します。 そのチャンネルのエクスパンダー設定が「Off」ではなく「**On**」に設定されていることを確認します(75ページを参照)。
複数のシステムをデイジーチェーン接続するとひどいハムノイズが発生する	デイジーチェーン接続されたユニットの音量を下げてください。

症状	対処方法
システムバッテリーを充電できない	システムバッテリーの充電中はシステムを使用しないようにしてください。 システムが非常に高温または低温の場所に置かれていた場合は、室温に戻してからもう一度充電してください。 システムの電源コードをコンセントから抜き、システムバッテリーを取り外します(65ページを参照)。バッテリーが冷えて手で触れるようになったら、バッテリーを元に戻して再度充電してみてください。 非常に大きな音量で使用している場合は、音量を下げてみてください。音量が非常に大きい場合、システムはシステムバッテリーと接続されたワイヤレストランスミッターの充電を一時停止します。
モバイル機器でBoseアプリが動作しない	お使いのモバイル機器がBoseアプリに対応しており、システム最小要件を満たしていることを確認します。詳細については、モバイル機器のアプリストアをご参照ください。 モバイル機器でBoseアプリをアンインストールしてから、アプリを再インストールします(16ページを参照)。

ワイヤレストランスミッター

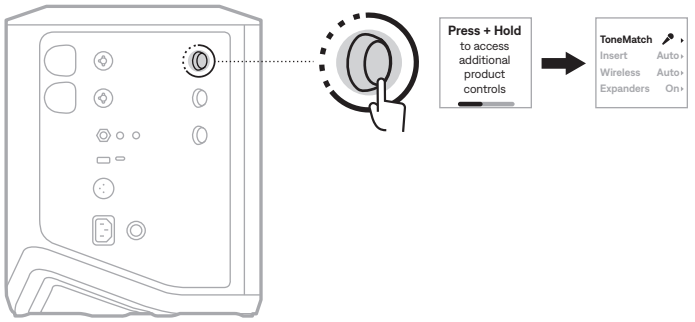
症状	対処方法
ワイヤレストランスミッターの電源が入らない	トランスミッターを完全に充電します(55ページを参照)。再度電源をオンにします。 トランスミッターをリセットします(77ページを参照)。再度電源をオンにします。
ワイヤレストランスミッターを充電できない	システムバッテリーが保護モードへ移行している、あるいは放電している可能性があります。システムを電源に接続します。 トランスミッターが非常に高温または低温の場所に置かれていた場合は、室温に戻してからもう一度充電してください。 ウォールチャージャーまたはパソコンを使用してトランスミッターを充電します(55ページを参照)。 非常に大きな音量で使用している場合は、音量を下げてみてください。音量が非常に大きい場合、システムはシステムバッテリーと接続されたワイヤレストランスミッターの充電を一時停止します。
ワイヤレストランスミッターをシステムに接続できない	電源インジケーターを確認して、トランスミッターの電源がオンになっていることを確認します(62ページを参照)。 接続インジケーターを確認して、トランスミッターがシステムに接続されているかどうか確認します(63ページを参照)。インジケーターが消灯している場合は、トランスミッターとチャンネルを再度ペアリングしてください(37ページを参照)。 トランスミッターを干渉源や障害物から離して、システムの近く(6 m以内)に移動します。 そのチャンネルのワイヤレス設定が「Off」ではなく「**Auto**」に設定されていることを確認します(42ページを参照)。 トランスミッターをリセットします(77ページを参照)。トランスミッターとチャンネルを再度ペアリングします(37ページを参照)。

症状	対処方法
ワイヤレストランスミッターに接続されたソースの音が途切れる、聞こえない	トランスミッターがソースにしっかりと接続されていることを確認します。 接続インジケーターを確認して、トランスミッターがシステムに接続されていることを確認します(63ページを参照)。インジケーターが消灯している場合は、「ワイヤレストランスミッターをシステムに接続できない」(73ページ)をご覧ください。 電源インジケーターを確認して、トランスミッターの電源がオンになっていることを確認します(62ページを参照)。 接続インジケーターを確認して、トランスミッターがミュートされていないことを確認します(63ページを参照)。ミュートされている場合は、トランスミッターのミュートを解除します(39ページを参照)。 トランスミッターとソースを干渉源や障害物から離して、システムの近く(6 m以内)に移動します。 「入力ケーブルで接続された楽器やオーディオソースの音が途切れる、聞こえない」(70ページ)をご覧ください。 トランスミッターをリセットします(77ページを参照)。トランスミッターとチャンネルを再度ペアリングします(37ページを参照)。電源をオンにしてトランスミッターをソースに接続して、音声をテストします。
Boseワイヤレスマイク/ライントランスミッターに接続されたソースの音が異常に小さい、または大きい	トランスミッターがソースに適した入力設定(マイク入力またはライン入力)になっていることを確認します。「マイク入力とライン入力を切り替える」(40ページ)をご覧ください。
ワイヤレストランスミッターを接続した状態で、インサートケーブルでチャンネル入力に接続したソースの音が聞こえない	そのチャンネルのインサート設定が「Off」ではなく「**Auto**」に設定されていることを確認します(41ページを参照)。
チャンネル入力にインサートケーブルで接続されたエフェクターからブーンという音やハウリングが聞こえる	そのチャンネルのワイヤレストランスミッターで、電源インジケーターと接続インジケーターを確認し、トランスミッターの電源がオンになっていてシステムに接続されていることを確認します(62ページおよび63ページを参照)。トランスミッターが正しく接続されていない場合、システムはエフェクターを入力として扱い、ブーンという音やハウリングが発生する可能性があります。 そのチャンネルのエクスパンダー設定が「Off」ではなく「**On**」に設定されていることを確認します(75ページを参照)。 グラウンドノイズが残っている場合は、エフェクターに原因がある可能性があります。問題を解決するには、お近くの楽器販売店などでグラウンドノイズ除去デバイスをご購入ください。

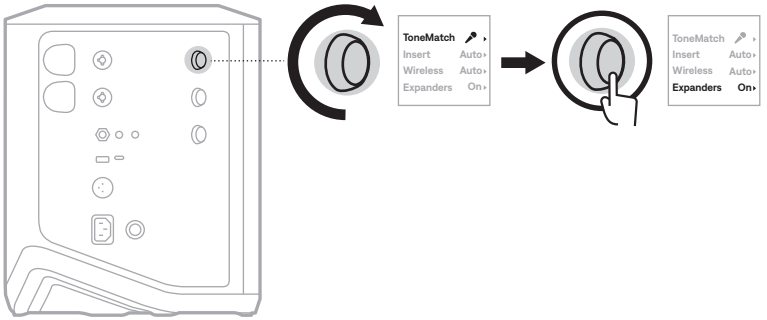
エクスパンダー設定の有効/無効を切り替える

エクスパンダー設定により、電気的なハウリングや、電波の干渉、環境によるノイズなど、あるチャンネルの低レベルのバックグラウンドノイズの音量を下げるかどうかを決定できます。セットアップする状況に応じて、1つまたは複数のチャンネルでこの機能を無効にすることができます。

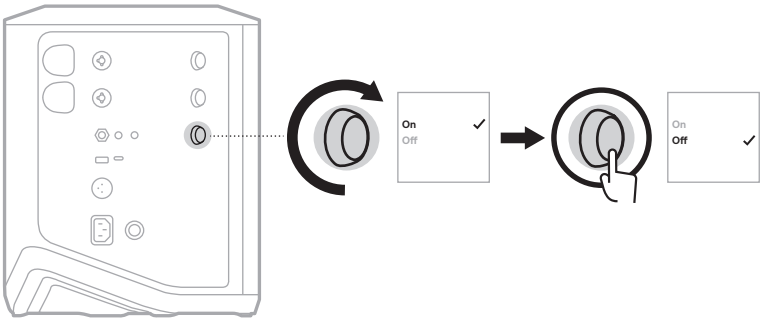
1. チャンネル操作ボタンを長押しし、チャンネルディスプレイにその他の機能のコントロールメニューが表示されたら放します。



2. チャンネル操作ボタンを回して「**Expanders**」をハイライト表示させ、操作ボタンを押して選択します。



3. チャンネル操作ボタンを回して、以下の設定をハイライト表示させ、操作ボタンを押して希望する設定を選択します。
   - **On** (デフォルト): このチャンネルのエクスパンダー設定を有効にして、低レベルのノイズの音量を下げます。
   - **Off**: このチャンネルのエクスパンダー設定を無効にして、システムで低レベルのノイズの音量を下げる機能を停止します。



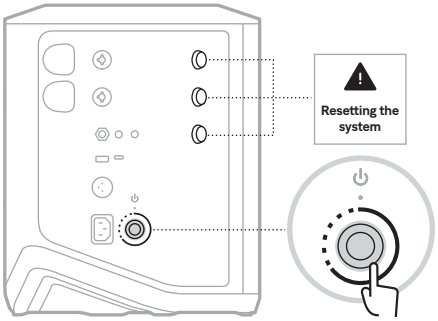
4. チャンネル操作ボタンを長押しし、その他の機能のコントロールメニューが消えたら放します。

システムをリセットする

工場出荷時の設定にリセットすると、チャンネルやシステムの設定、*Bluetooth*接続、ワイヤレストランスミッターの接続がすべて消去され、出荷されたときの設定に戻ります。

注: Boseアプリを使用して、システムリセット後にチャンネルとシステムの設定を簡単に復元できます。そのためには、リセットの前に、現在の設定をアプリのシーンとして保存してください(36ページを参照)。リセットが完了したら、アプリでシーンを選択すると、*Bluetooth*接続とワイヤレストランスミッターの接続を除くすべての設定が復元されます。

電源ボタン ⏻ を10秒間長押しし、電源インジケーターが消灯して、チャンネルディスプレイにメッセージが表示されたら放します。



システムが再起動します。リセットが完了すると、電源インジケーターバーが白く点灯します。

ワイヤレストランスミッターをリセットする

工場出荷時の設定にリセットすると、ペアリング情報がすべて消去され、出荷されたときの設定に戻ります。

電源インジケーターが消灯するまで、電源ボタン ⏻ を10秒間長押しします。

©2024 Bose Corporation
100 The Mountain Road, Framingham, MA 01701-9168 USA AM872237-0010 Rev. 02